

502

263

著 郎 二 口 坂

英 國 政 界 の 煩 悶

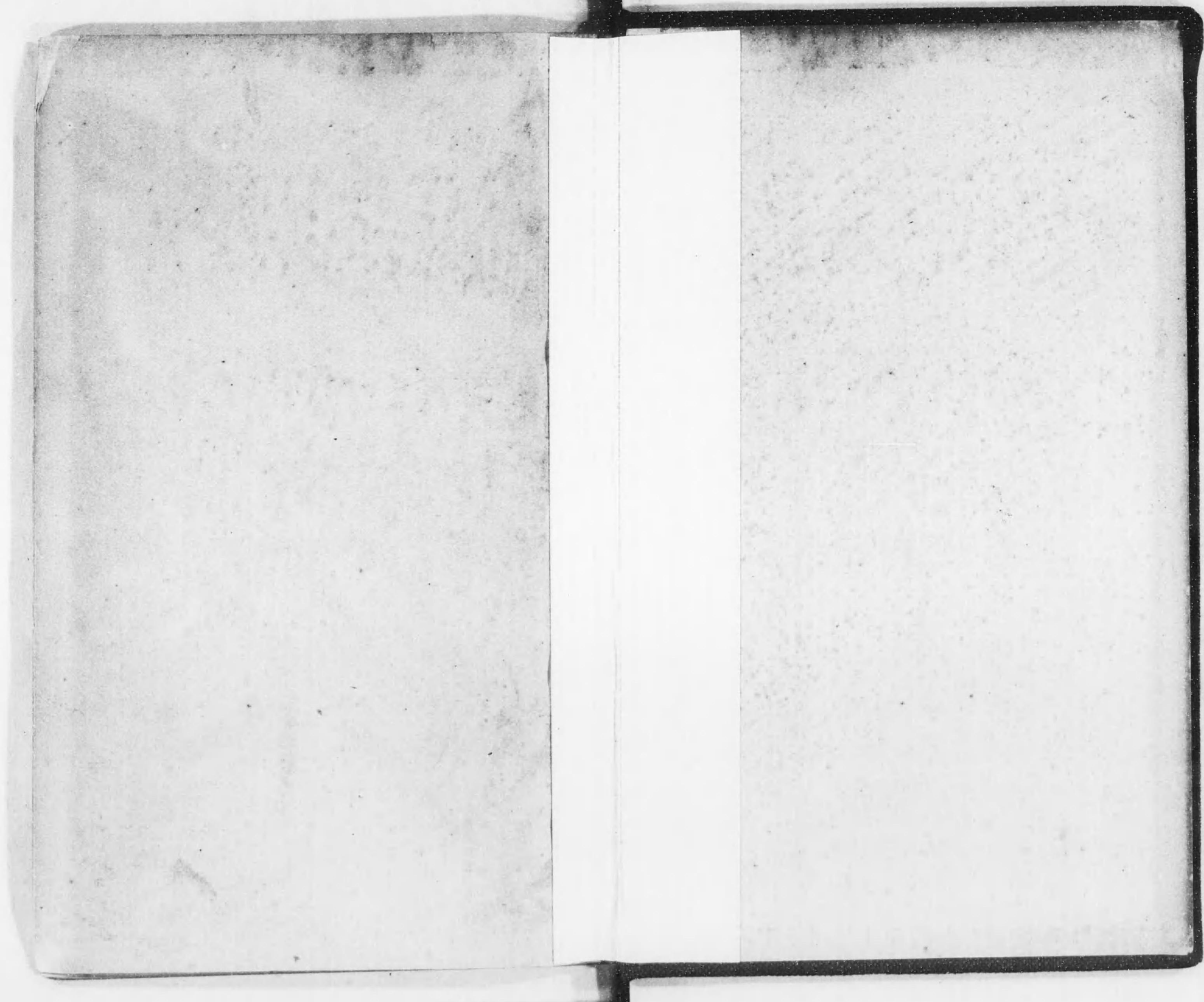
1922

店



始





502-263

坂口二郎著

英國政界の煩悶

東京下出書店

大正  
12 6 1  
内交

ハーリー・チョーンズ氏及び其家族に

## 序文

### (一)

眼前の或新事實を看取して、逸早くソレに處すべき方略を案出するに就ては、ロイド・ジョージ氏は確に一種の天才を有して居ると稱せられて居る、そして同時に唯だ其の事實を看取するまでとあつて、如何して、何の爲にソレが現出した乎、其の理由や事情やを解釋する事は出来ないと言はれて居る、若し所謂新しい人の口吻を藉りるならば、其處にロイド・ジョージ氏の現代的でない理由もあり、或は新舊政治家の分岐點があるかも知れない、船が危い！皆々出て來い、難破を防げと叫びながら、政黨の殊別も歴史の相違も、一切從來の行懸りを忘れて、國家の危急を救はなければならぬと、側の目には随分思ひ切つた議論をして居るやうにも見えるし、殊に傳統的、保守的の英國政治に向つて、先例を破るやうな言動もあるやうに思はれながら、矢張り

新しいと云ふ事が解からぬとあつては、流石にロイド・ジョージ氏も忌々しい氣がするであらう、英國家は現に對獨戰爭以上の危急に瀕して居る、一步を誤れば、忽ち國家の破滅を免かれぬと、聲を揚げて、労働黨乃至労働運動者の言論を反駁しながら、國民的政治上の結束を説いて居る風が、火の出るやうな熱烈さを偲ばせる、アスキース氏一派の獨立自由黨などは、要するにフット、ポール競技に於ける所謂中堅組の間で、急先鋒の労働黨の後から、單だソレに跟いて行くまでの事であると、ロイド・ジョージ氏は、機會ある毎に労働黨と併せて、アスキース氏一派を嘲笑して居る、ソレでも獨立自由黨側から言はせれば、ロイド・ジョージ氏自から保守黨に降つて、英國傳來の自由主義を滅茶々々にして了つた不埒者である、グラッドストーンを始め、歴代自由黨名士の肖像と一緒に、自由黨本部に掲げて置くさへ汚らはしいと云ふので、到頭ロイド・ジョージ氏の肖像までも引卸して、大地に擲付けたと噂されて居る、ロイド・ジョージ氏は果して保守黨に降つたであらう乎、少くとも保守黨側では、決し

てソんな事は言つて居らない、大戰爭當時の國政に當つて、能く戰爭の目的を成熟した人であるとは、保守黨側の政治家もよく言ふ事ではあるが、然し同時にロイド・ジョージ氏の爲に、保守黨の主義、綱領が随分泥土を塗られたとも言つて居る、保守黨の有力政治家で、兎もすれば同黨將來の首領に擬せられたり、或は其の候補者に數へられたりして居るダービー卿は、駐佛英國大使を免せられた當時、既に内閣に入るとさへ風説せられた程に、ロイド・ジョージ氏とは豫てからの仲善しで、愛蘭問題に就ても内々ロイド・ジョージ氏の旨を受けて、暗中飛躍をやつたと傳へられて居るが、嘗て保守黨員の或集會場で、密獵者を取締るのには密獵の經驗ある者に限ると言つて少からず英國政治社會の注意を惹き起した事實がある、ダービー卿の所謂密獵の經驗ある者が、ロイド・ジョージ氏を指して居る事は明かである、即ち卿は保守黨の首領としては、ロイド・ジョージ氏に限ると云ふ意味を諷示したのであつた、密獵の語に種々の意味はあらう、然し保守黨の一部、殊に有力なる黨員の間にも、ロイド・ジョ

ージ氏が同黨の首領に坐るべき資格を持つて居ると認めて居る事は、明かなる事實である、況して他の有力な保守黨の新進として評判の好い現任大藏大臣ロバート・ホー  
ン氏が、ダービー卿と等しく、最もロイド・ジョージ氏に可愛がられ、又ダービー卿  
と等しく、最もロイド・ジョージ氏の爲に忠實なる政治家である事實から考へても、  
ロイド・ジョージ氏が保守黨の間に相應の威望を持つて居ることは、争はれない所で  
ある。

## (二)

然し如何にダービー卿がロイド・ジョージ氏と親しく、又如何にロイド・ジョージ  
氏に感服して居ると言つても、現在の保守黨を其の儘にして、所謂雁首を取替へる意  
味に於て、ロイド・ジョージ氏をチェンバーレン氏に代へようとは言はぬ、保守黨は  
現に其の首領を持つて居る、多少變態の首領ではあるが、チェンバーレン氏はボナー  
ロー氏の後を襲いで、保守黨の首領である、而も新しい爲り立の首領である、斯の人

を無視して保守黨首領の聳取り相談をする譯には行かない、勢ひダービー卿は保守黨  
の改造を論じて居る、そして後にロイド・ジョージ氏を首領に据ゑようと言ふのであ  
る、時代が變つた、從來の儘の保守黨では、モウ立行かない、新な血が必要だと言ふ  
のである、セシル卿もソナ議論をして居る、事實に於て昔の保守黨と今の保守黨は  
モウ大に違つて居る、自然其の實に副つて組織も變へ、或は名稱も變へねばならぬと  
斯うセシル卿は言つて居る、そしてダービー卿はロイド・ジョージ氏を迎へようと思  
み、豫てロイド・ジョージ氏と仲の悪いセシル卿は大戦争突發當時の英国外務大臣グ  
レー卿と結ばん希望を持つて居る、勿論保守黨の中でも所謂極端派として、モーニン  
グ・ポスト紙に煽られて居るソースベリー侯一派が、然うした改造論だのロイド・ジ  
ョージ氏拜戴の議論だのを異端邪説として、言語道斷の事に思つて居るのは、言ふま  
でもない、然し保守黨が假りにロイド・ジョージ氏との縁を切つて、現在の勢力を持  
つて行ける乎何う乎、ソレは第三者に取つても甚だ心細い問題である、そして此の心

細さは假令、ポナー・ロー氏が再びチエンバーレン氏に代つて、保守黨を統率する場合があつても、恐らく同じである、ダービー卿若しくはセシル卿の口吻を藉りて言へば、實に時代は變つた、保守黨の内容が事實モウ昨日今日と同じではない、保守黨の組織を變へようと云ふ議論、又は名稱を變へ首領を新にしようと云ふ議論のあるのは當然と言はなければならぬ、彼等は愛蘭の自治は愚か、自治領地と爲る事をさへも拒む事は出来なかつた、種々の内政外交に就て、ロイド・ジョージ氏の自由黨保守黨混淆方策を否む事が出来なかつた、自黨の本部にロイド・ジョージ氏を迎へて、讚美の言葉を奉つたりなぞした、自由黨本部でロイド・ジョージ氏の肖像を引卸した事實と照し合せると、折角保守黨と自由黨と入替に爲つたやうにも思はれる、自由黨から言へば忌々しい事であらうが、然し保守黨側に取つても、餘り香しい丈けの事ではない筈である、自由黨はロイド・ジョージ氏の遣り振りを見兼ねて到頭分裂して了つた保守黨の中にも事實二つの潮流が別々に走つて居る、唯だ其の二つの流れが、自由黨

ほどに顯著でない所にロイド・ジョージ氏の付け目がある、所謂極端派も少數、セシル卿の勢力も尙ほ太したものでないと云ふ事實を、ロイド・ジョージ氏が見のがす譯はない、飽まで獨立自由黨を罵しりながら、遮二無二労働黨の下働きと言ひ做して密と保守黨側に色目を使ふ所にロイド・ジョージ氏の野心がある、保守黨の機關紙がロイド・ジョージ氏の政策を批難して、兎もすれば労働黨かぶれをして居ると云ふ攻撃が、現に保守黨に色目を使つて居るロイド・ジョージ氏に取つては、可なりに煩累さい事實である、其の爲にロイド・ジョージ氏はアスクイス一派の獨立自由黨に向つて、自ら亦煩累さい程に労働黨かぶれを攻撃しなければならぬ、ソレは保守黨に對するロイド・ジョージ氏の牽制策とも解せらるゝ、所謂労働黨かぶれをして居るのは自分でなくて獨立自由黨であると云ふやうな態度を示す所に、ロイド・ジョージ氏の尾端が見える。

事實に於て、ロイド・ジョージ氏は保守黨の廂を借りて居るの乎、或は保守黨却てロイド・ジョージ氏の廂を借りて居る乎、ソレを明言する事は出来ない、然しロイド・ジョージ氏自ら非労働黨の大團結を高唱する裡に、保守黨を基礎として所謂國民中央黨の首領と爲らん野心を有し、労働黨及び獨立自由黨を向ふに廻して、自分の勢力又は政治的生命を持つて行かうと云ふ所存がある事は明かである、そして眞に保守黨がダービー卿やセシル卿の言ふやうに、組織變改の時期に立至つて居る者ならば、ロイド・ジョージ氏の目論見が、必ずしも空想でない事も亦明かである、即ち労働黨對非労働黨の差別を以て、英國從來の保守黨對自由黨の殊別に代へる事は、或は人爲的にロイド・ジョージ氏の努力に依らなくても、必然の成行かも知れない、然し此場合獨立自由黨、即ちアスクイス氏一派が孰れに何う收まる乎、ソレが極めて興味ある疑問である、或英國の批評家は此の場合、此の一派の去就は資本税に對する態度如何に依て岐れると言つて居る、去就の語は或は尙ほ十分ではない、寧ろ其の生命を新にし

得る乎否乎の問題が、茲に懸つて存するとも言ふべきであらう、假りに獨立自由黨が此の資本税に向つて、反對の意向を示すものとすれば、矢張り労働黨との合同は不可能である、固よりロイド・ジョージ氏一派と合する譯には行かない歴史と因縁とを持つて居る、勢ひ中途に迷はなければならぬ、アスクイス氏は嘗て資本税に就て能く事業の發達を妨げぬ事が出来れば、資本税も亦悪くはないと言つて居る、然し労働黨側の慾を言へば、尙餘りに曖昧である、今少しく明快に言つて貰ひたいのである、勿論労働黨側でも過激な分子は、到底獨立自由黨と調和は出来ない、彼等は愛蘭問題に就てさへも、アスクイス氏一派はロイド・ジョージ氏の遣り方を非難する資格はないと言つて居る、アスクイス氏の内閣とロイド・ジョージ氏の内閣と、労働者階級に對して不都合な點は同じであると言つて居る、然し彼等の穩和派と獨立自由黨の新分子と、唯一歩の隔たりに在る事は明かである、イヤ機會を以て兩派相合して、ロイド・ジョージ氏を倒して見たい氣があることも事實である、ソレでも兩派全く融合して打



つて一丸と爲り、丁度ロイド・ジョージ氏が保守黨を中心として自家の聯立自由黨を他の他を合せて一新政黨を作るやうに、アスキイス氏又はクラインス氏或はヘンダーソン氏の下に労働黨と獨立自由黨とを合せて、別に一新政黨を作らうと云ふ事は、恐らく不可能である、そしてソレは單に資本税に對する獨立自由黨の所存が、尙ほ不明確であるばかりではなく、更に兩派の間に政策若しくは政見上の相違が少くないからである、即ち所詮アスキイス氏一派の獨立自由黨は、ロイド・ジョージ氏の一派と労働黨との間に壓迫せられて、其の立場を失ひつゝ、消滅すべき運命を持つて居るやうに見える、言ひ換へれば、英國の政界は果して保守黨自由黨の代はりにロイド・ジョージ氏一派、即ち非労働對労働黨色別に爲つて了ふべき者であるやうに豫想せられる、然しロイド・ジョージ氏の所謂非労働黨が、獨立自由黨の現在のやうに、其の傳統的の主義、政綱に向つて、十分の新鮮味を與ふる事も出來ず、一面又徒らに労働黨の或部分を眞似て、明快に自個の立場を作る事が出來なかつたならば、所謂非労働黨も亦

結局獨立自由黨と等しくフット、ボール競技に於ける中堅の役目を勤める外に仕方はない、斯くて労働黨以外の各派政黨は、假令如何なる人の下に組織せられ、如何なる名稱を付せられても、要するに労働黨に引すられて行く外に、全然其の途はないであらう乎、若し従來の政黨が——或は政治家が眼前の新事實を看取する事が出來ず、若くは看取し得ても、ソレを如何して何の爲にと云ふ事から解釋するでなければ、或は凡て然うした運命を免かれぬかも知れない、現に獨立自由黨の有志乃至政黨改造論者の努力が其處に在る、苟くも既成政黨の生命を新にする爲には、勿論英國以外の各政黨政治家も、亦等しく其の點に着眼しなければならぬ。

## (四)

新自由黨論又は自由主義の新解缺と云ふやらかな努力を試みる人にマスターマン氏或はホブハウス氏などがある、ロイド・ジョージ氏のやうに主義を賣つたり、主義を無視したりするやうな政治家は、到底自由主義と相容れぬ、自由主義その者は、所謂新

らしい時代に處して、廢黜すべきものでもなければ、又廢黜せしむべきものでもない。人生の在るかぎり、自由主義その者も亦、永久に活くべきものであると云ふのが、此等の人々の意見である。マスターマン氏は特に此の努力に熱心して、自由黨の新政策に説き及び、殆ど労働黨との間に薄紙一重の處まで、押進めて行つた爲めに、却て労働黨との聯合若しくは其の合同を目的とする議論であるとさへ風評せられた事がある。事實に於てマスターマン氏の一派は、然うした目論見を持つて居た事があるかも知れない、然し労働黨側ではトーマス氏を除いて、少くとも其の領袖中に然うした空想を持つて居る者がない事が明かである、否、トーマス氏さへ愈よと爲つて果して自由黨側の色目に應ずる乎何う乎、ソレは大なる煩悶と言はなければならぬ、例へば唯一の産業國有と云ふ如き問題に就て考へても、労働黨側の國有論と自由黨——獨立自由黨側の國有論との間には、其の根本主義に於て、少からぬ相違があり、労働對資本の關係、將來の國際關係に就て見ても、自由黨と労働黨との所存が、全く一致しようとは

思はれぬ、殊に労働黨側でも、過激派は分子が漸次其の勢力を張つて来るやうな場合に立至つたならば、自由黨との距離は此の上にも又一層の擴がりを見せぬとも限らぬ。實を言へば、限らぬどころの取沙汰ではない、最近の傾向は露骨にモウ其の事實を暴露して居ると言はなければならぬ、但し労働黨又は労働運動者中に、漸次過激派分子の増加を見ると云ふ事は、労働黨の領袖達に取つても亦、必らずしも厄介でない事はない、彼等は最近の労働運動、殊に炭坑夫ストライキ問題なぞに就ては、何時も實際運動者の爲めに、無視せられた氣味を免かれぬ、無視と言ふのが余りに酷であるならば、少くとも輕視せられた氣味を免かれぬ、實に労働黨の領袖達は、炭坑夫ストライキ進行中、何時も議院内に置去りにせられた風があつた、折角斯うした條件で、ストライキを中止させようと、政府當局者との間に諒解を得ても、さて其の條件を示して坑夫側の委員達に相談をすると、其の方では振向きもせぬと云ふやうな事實さへあつた、現に労働黨の院内總務クラインス氏は、當初からのストライキ反對者であり、

トーマス氏も始終輕々ストライキを行ふべきものでない事を戒めて居ながら、イザと云ふ場合には、労働運動者を抑える事が出来ない、或は寧ろ労働運動者の多數に壓服せられて了ふと言つた方が真相であるかも知れない、ロイド・ジョージ氏が所謂労働運動の過激化を説いて、其の領袖達が何れも穩健な考へを持つて居るのに拘らず、多數の者は領袖達の意見に従はうともせぬと言つたのは、要するに此の真相を指したものである、詰り労働運動は議會の内部、即ち院内から院外に移らとして居る、言ひ換へれば、労働運動はモウ議院政治又は其の制度に向つて、不信任の態度を執らうとして居る、或は事實上執つて居ると言ふべきであるかも知れない、そして此の事實に處して、英國の労働黨が何う云ふ方針を執る乎、飽まで此の傾向を助長して行く乎、或は強く議院政治を保護して、労働運動の院外に去るのを防ぐ乎、其の態度如何に依て労働黨の内部にも勿論二つの流れが在る譯である、獨立自由黨の分裂した理由、労働組合の方針に就て種々の議論が紛出した理由——ソレ等の原因が、悉く此の労働黨の

内部の二潮流に在ることは、何人も容易に了解し得る事實である、即ち労働黨も亦決して他黨の煩悶を面白半分に見物して居る譯には行かぬ。

## (五)

英國現在の政界を概括して言へば、古い者を維持しようとする云ふ努力と、新しい者の喰い込んで行かうとする努力との闘ひである、ソレは決して英國政治界又は政治家丈けの特殊な現象ではない、然し左しもの「歴史」を築き上げて、自から亦一方ならずソレを誇つたり、難有がつたりして居た者が、脚下から新らしい者に脅かされて、一寸一分を惜みながらソレでも尙且つ古い者を削つて行かなければならぬ境遇、感情が、側目にも氣の毒でもあり、同時に又興味もある観ものである、私は一年余を此の見物に過して、一齣々々ごとに、或は一幕々々ごとに、ソレを郷里の福岡の新聞に書き送つた、此の一冊は即ち其の合集である、題目は必らずしも悉く労働運動又は政治問題に限らなくとも、若し讀者が前に述べた要領を以て、私の通信を讀んで下すつた

ら、事ごとくに英國政界の苦悶が窺はれる事と思ふ。

一六

大正十一年一月廿日

東京市外中澁谷八千八聲山房にて

坂口二郎

### 英國政界の煩悶目次

通信開始の序	1
當面第一の問題	4
英國政府と過激派	13
除隊兵善後問題	20
内政外交の種々	24
英首相對炭坑夫	30
愛蘭問題の論評	33
聯立内閣の是非	35
巨頭連の論争	36

二

- ・非猶太人論議……………六七
- 炭坑夫同盟罷業……………七六
- 非常法案の可決……………八五
- ゼネヴァ會議前程……………八八
- 英政界時事五題……………九二
- 英國と國際聯盟……………一〇〇
- 財政經濟論議の沸騰……………一〇六
- 獨立自由黨の焦慮……………一一三
- 英佛同盟の論議……………一二七
- 財政問題の渦巻き……………一二一
- 英國豫算の論議……………一二七
- 陸海軍費の膨脹……………一三七

- ・愛蘭問題一段落……………一三九
- 英國失業者問題……………一四四
- 突發せる海軍協定議……………一四九
- ・英國政府の三難案……………一五七
- ・印度總督の任命……………一六二
- 失業問題と勞働黨……………一六八
- 佛國新内閣と英國……………一七五
- 軍備制限歡迎……………一七六
- 巴里の五國會議……………一八五
- 勞働黨の失業對策……………一九三
- 獨逸賠償額の協定……………一九八
- 獨逸賠償し得る乎……………二〇六

三

聯立内閣動くか……………二二二

如是英米關係……………二二二

英國議會の新會期……………二二七

英相前英相一騎討……………二三八

英國議會の經過……………二四五

前の倫敦會議……………二五二

米新大統領と英國……………二五九

後の倫敦會議……………二六三

英炭坑紛議再發……………二八一

英國新豫算の批難……………二九〇

英國海軍の新計畫……………二九四

近東問題解決案……………二九八

ポナー・ロー氏の退隱……………三〇四

保守黨の新首領……………三二四

獨立労働黨の分裂……………三三〇

空前のストライキ……………三三一

英國炭坑の危急……………三三九

三角同盟動く……………三四九

三角同盟崩る……………三五九

坑夫坑主紙上折衝……………三七二

外に賠償内に豫算……………三七八

坑夫尙は肯かず……………三八四

再度の倫敦會議……………三九三

政府坑夫睨み合ひ……………四〇五

東宮殿下を迎ふ……………	四二二
愛蘭問題の片影……………	四一六
英國政界五十日……………	四二〇
嗚呼日英同盟……………	四四〇
英内閣對タイムス紙……………	四四八
英佛間漸次疎隔……………	四五三
英内閣對タイムス紙(再び)……………	四六三
労働黨の努力振り……………	四六八
秋季會議の問題……………	四七七
英國四大艦建造……………	四八四
所謂英帝國の統一……………	四九二
巴里會議の失敗……………	四九八

議會最近の二問題……………	五〇六
對愛蘭折衝重大……………	五二二
労働組合大會……………	五二四
労働組合大會(續き)……………	五三三
平和解決尙困難……………	五三六

目次終

# 英國政界の煩悶

## 通信開始の序

予は九月四日午後六時四十分正に倫敦の人と爲れり、實に横濱を發して五十九日目也、例に依つて歌あり、

船にして今年の夏を過しけり

秋風と共にロンドンに入る

正直に言へば、予の健康を以てして、一萬二千六百哩の長航路線を取れるは、寧ろ大膽なりし決心なりしやも知るべからず、而も船客中少からぬ病人を出せるに拘らず、



予が遂に船醫の厄介と爲る事なかりしは、全く予の僥倖と言はざるべからず、殊に船客の大多數が佛國マルセイユに上陸、鐵路直に倫敦に向へるを見送りて、僅々九名の日本人船客と、更にリヴァプールに向ひ、ビスケー湾を横ぎりて豫定の航路を終へたるは、予の最も愉快を感ずる所なりとす。

## (二)

リヴァプールより倫敦まで、急行列車にして、約四時間を要す、予は既にリヴァプールの停車場に於て、其の切符賣口の前に立てる警官及び切符發賣掛に對して、少からぬ好感を得たり、即ち彼等が外人客に對して、深切にして鄭重なる態度に向つて、甚だ愉快を覚えざるを得ざりき、驛夫車掌等も亦極めて深切也、予は之れを着英第一の印象と做すを躊躇せず、若し夫れ鐵道沿線の風趣に至つては、更に予をして、快感を禁せざらしむるものあり、日本を出で、始めて見たる綠林青草の眺めは、時として岡巒斷續、宛として武藏野を過ぎるが如く、富士の裾野を行くが如く、唯だ到處牧場

點在して、牛馬乃至緬羊の放牧せらるるを見る所、聊か其の趣を異にするのみ。

## (三)

即ち汽車のユーストン停車場に到るまで、予は殆ど身の既に一萬二千餘哩を航して英國に客たるを忘れたるの感あり、倫敦その者に就ても、予は一見會遊の地に到るが如く、何等の不安をも、驚異をも感ずる事なかりき、實に予は恰も舊知の友に會ふが如き感情を以て倫敦に於ける第一歩を踏み下し、馬車を驅りて豫て通知し置ける友人の宿所を訪へり、其の如何に予が餘裕を有したるかは、馬車の中に在りて沿道の店舗行人を眺めつゝ、偶々予が被れるソフトハットの形が倫敦の流行と異れるを感知し、馬車の窓玻璃を鏡に代用して、多少の變改を試みたるに見るも、略之れを推し難からず、更に予は其の夜友人の豫約し置き呉れたるホテルの一室に、五十餘日間の航海に疲れたる身を休めつゝ、恰も東京に在るが如き感情を以て、階上階下の物音に耳を傾けつゝありき。

(四)

然れども倫敦に着して、尙且つ予が斯くの如く平静なるは、決して予の誇りにはあらず、予は是れより進んで巨細に倫敦を觀、英國を觀るに従つて、必ずや多くの驚異を感知し、或は又自ら其の不安を感知すべきを信じて疑はず、予は實に此等の感知を記述して、讀者と共に樂む所あらんとする也、今や予の文想湧くが如く、心身また極めて爽快也、幸ひに讀者の愛讀を得ば、予が渡歐も亦徒爾ならず。(一九二〇、九、五)

## 當面第一の問題

(一)

茲に當面と言ふは、嘗に英國當局に取つてのみならず、實に予に取つても亦然りと做す、即ち予は倫敦着の翌日街上に幾種の新聞を求めて、早くも炭坑労働者のストラ

イキ問題あるを知り、而も其の形勢の極めて切迫せるを知れり、予のスマイリー氏の名を知る事久し、彼れは恐らく最近英國労働運動の中堅也、或は其の急先鋒と謂ふべし、鐵道従業員組合の領袖トーマス氏は正に彼れと好一對なるも、未だ彼れの如くに急進的ならず、唯だ坑夫組合の運動と鐵道従業員組合の運動と、尠くも最近數年の間殆んど相連繫し、且つ運輸業者組合と併せて、所謂三角同盟を形成せるが故に、人のスマイリー氏を語るもの、同時にトーマス氏を忘れ能はざるのみ、スマイリー氏は實に坑夫聯合組合の首領也、労働者中に在つて特に精悍なる素質を有する坑夫を率ゐて、且また甚だ硬骨不屈の労働運動者たるは、洵に其の處なりとす、カーライルは嘗て坑夫を頌徳して、敬ふべきは其の節くれ立つたる手也、其の粗野なる面貌也、そは實に人らしき生活を爲せる人の顔にあらずや、辛くも我等の仲間入りを爲せる者よ、我等の爲めに卿等の脊は斯くの如く屈し、我等の爲めに卿等の四肢は變形せり、卿等は抽籤に當れる我等の爲めの徵募兵也、而も卿等は我等の爲めに戦ひ、且つ爾く傷けりと

言へり、地下幾百千尺の坑道に在つて、日光より遠ざかりつゝ、生々しき礫石其の物を採掘し、乃ち土石の裡に勞働せる坑夫等が、動もすれば粗暴なる言動に流るゝ憾みあるは、恐らく之れを避くべからず。

## (II)

戦時及び戦後、英國の勞働運動に見るも、坑夫聯合組合が他の勞働組合に比して、甚だ従順ならざりしは、之れを否むべからず、従順の語若し彼等に取つて當らすとせば、或は柔弱ならずと言ふべし、彼等は英國政府當局の交渉に應じて、多くの勞働組合が、其の軍需品法を承認し、戦時中ストライキ中止の態度を取れるに拘らず、之れを各勞働組合領袖の軟化として、獨りストライキの「權利」を固持し、休戦前後英國勞働界の危険化に就くは、始終其の核心たるの觀ありき、而してスマイラー氏は彼等の中心人物也、彼れは勞働黨と戦時聯合内閣との提携を破るに、最も熱切にして強硬なる主張者なりき、多くの政治問題に對して、最も多く屢々ストライキの斷行を提議

せる勞働運動者なりき、彼れの理想は固より勞働者の産業支配に在り、其の内閣組織に在り、而して明かに又國際的勞働階級の聯盟に在り、予は彼れの主張及び理想に關する批評を他日に期すべし、唯だ夫れ石炭工業は英國産業の中心也、若し交通運輸業を以て産業の動脈とせば、石炭は少くも英國に在つて、其の筋肉たり、血液たるを失はず、所謂三角同盟の重きを爲す所以、坑夫組合の勢力重大視せらるゝ所以、スマイラー氏の名喧傳せらるゝ所以、悉く此に在り。

## (III)

ロイド、ジョージ氏は嘗て一九一五年倫敦に開會せられたる炭業聯合大會に於て、演説して曰く、平和の際に在ても、戦時に在つても、實に石炭の王様こそ我が産業の頭目なれ、ソは我等英國民に取つては、一種の國際的貨幣と謂つべし、我等は海外より各種の物貨乃至原料を買入れつゝあるも、未だ曾て金貨を以て之れが代價を支拂はず、乃ち唯だ石炭に是れ頼れり、而も今や此の石炭は戦争の爲めに我等の生命と爲り、

敵に取つては其の死地と爲れりと、然れども事實を云へば、戦争前後英國の石炭若しくは石炭業が、英國殊にロイド、ジョージ氏の内閣を困惑せしめ、英國政府其の者を死地に誘はんとせる形跡も亦なきにあらず、現に目下の問題に就て其の経過を見るもロイド、ジョージ氏が勿皇として瑞西旅行より歸途に就ける所以の原因が、愛蘭問題以外、又坑夫のストライキ問題切迫せるに在るは、之れを否むべからず、或一派の新聞の語調を籍りて言へば、彼れは所謂最後の幕に至つて、復又議會の權能を無視する底の仕事を試みるが如き事なきを保せず、更にノースクリップ卿の新聞をして言はしむれば、或はストライキ問題を利用して總選舉を斷行するを當然とす、ストライキ問題、決して小ならざる也。

## (四)

蓋し坑夫聯合組合の要求は、一日二志の賃銀増加並に家庭用石炭の價格に對して、一噸に付十四志二片の値下げを行ふべしと言ふに在りて、政府當局の之れに對する主

張は、賃銀問題は之れを産業裁判の裁決に移して解決すべく、炭價の問題は單なる或委員一個の考慮を以て決定すべき性質のものにあらず、實に議會の論議に俟つべきものなりと云ふに在り、斯くて坑夫組合は、九月二十五日を以てストライキを宣告し、二十七日以後之れを斷行するの議を決し、私かに當局の態度を觀望するの風あり、商務大臣ロバート、ホーン氏が之に對してスマイリー氏に面會を求めたるは、九月六日の事也、彼れは先づ當局と坑夫組合との間に於ける誤解を去るべく、坑夫組合代表者の商務省に到らん事を求め、スマイリー氏また之れを諾して、九日ポーツマウスより倫敦にロバート、ホーン氏を訪へり、氏及び商務大臣が各々其の同志の代表者又は部下の役員を同伴面會せるは、今更説明を要せず、而も會談の結果は彼等が既に直接間接、新聞を通じて發表せる主張及び應答を繰返せるに過ぎず、ホーン氏を以てすれば、賃銀の引上げにして眞に坑夫組合の主張するが如く緊切なりとせば、是れ獨り坑夫の問題のみにあらずして、一般賃銀の問題也、特に坑夫組合の主張するが如く、生活費

の増加に伴ふ不可能の要求なりとせば、一層之れを他の給銀と関連せしめて考慮せしむべき理由あり、況や坑夫の勞銀は、石炭採掘高及び炭坑主の利益問題と關係する所あるが故に、旁坑主側の主張をも聽取する必要があるべく、裁判の決定を妥當と做すに在り。

## (五)

然れども坑夫側よりすれば、所謂産業裁判に對して、彼等は自家の不利を豫思するの傾きなきにあらず、即ち當局は裁判の神聖にして、斷じて他の干渉を容さざるを辯じ、且つ之れを既往の經驗に徴して、同裁判の必ずしも坑夫側に不利ならざるべきを力説せんとせるも、坑主との會見又は折衝は要するに問題の逆戻りとして、坑夫組合代表者の斷然首肯し能はざる所なりとす、更に炭價の問題に關しては、政府當局と坑夫側との態度及び所見に少からぬ相違あり、事實を言へば、炭價の問題は炭坑管理の問題也、政府にして戰時に於けるが如く自から永く炭業の管理を續行せんには、家庭

用石炭の賣價を調節し、又國內用炭量と輸出炭量とを鹽梅すること至難ならず、而も政府の管理は坑主側の決して喜ぶ所にあらず、政府また此の事情を知りて、輕々坑主等の氣色を損するを欲せず、斯くて當局は之れを議會の問題と做し、坑夫側は當局の意思如何を以て解決するを易しと做す、予は茲に兩者の主張を批評するの餘裕を有せず、唯だ坑夫組合が果して炭價と管理との關係に就て、豫め明快なる解釋を有したるや否やは、聊か疑問とすべき事情なきにあらず。

## (六)

坑夫側及び勞働組合の機關紙は、固より輸出炭の制限を以て、炭價引下げの一理由と做し、間接に管理の必要を説きつゝあるも、直接管理の緊要を主張せず、或は炭價引下げの主張は、自家及び一般消費者の生活費引下げと解釋すべき理由あるも、彼等は當初却て自家中心の議論に熱して、一般消費者に對する恩惠に言及せざりし怨みあり、唯だスマイリー氏及び坑夫組合代表者が商務大臣との會見に於て、全然意見の相

違と做し、又誠意を缺きて問題を逆行せしむるものと解し、到頭會見を無結果ならしめたるの一事、幾何か其の態度の強硬なるを示せるのみ、乃ち形勢は依然として動かす折柄ポーツマウスに開ける三角同盟會議は會見始末の報告を聽いて、極めて沈痛なる感慨に打たれたりと傳へらる、ロイテル電報は此の時更にスマイリー氏が加奈陀の某労働組合に向つて、英國炭坑夫のストライキに對する同情ストライキを斷行すべく要請せるを傳へ、倫敦に在つては、同時に地下鐵道を始め各種電氣業労働者の同情ストライキを豫報せられたり、知らず形勢は動かざる乎、動きつゝある乎、倫敦の新聞は樂觀と悲觀と日々に區々として、真相を捕捉すべからず、而も今朝(九月十五日)の各新聞は、十四日開會せられたる内閣會議が、何等かの方針を決定し、ストライキ緩和の曙光を認めたりと傳ふ、ロイド、ジョージ氏の取捌き方こそ見ものなれ。(一九二〇、九、一五)

## 英國政府と過激派

### (一)

デーリー、ヘラルド紙が露國過激派より七萬五千磅(七十五萬圓)の補助を受けたりと云へる一事は、流石に英國政界及び英國民の視聽を聳だたしめたる問題たるを失はず、予は嘗て東京に在る時、ボナー、ロー氏が英國下院に於て、露國過激派の對英宣傳に就き政府自ら過激派宣傳費の一部が、英國に注入せられたりと云へる風評を耳にせるも、未だ其の事實を確むるに至らずと答辯せるを知り、ロー氏以外の當局大臣にして同じく又過激派の對英運動を警戒しつゝある旨、下院議員の質問に答へたる事あるを知れり、蓋し英國政府の此等過激派の對英宣傳に向つて注意を怠らざること既に久しと做すべく、彼等は休戦後駐露英國軍隊の間に撒布せられたる過激派の宣傳ビラに對

して、私かに苦き經驗を嘗めたりと解すべき理由あり、爾來國內労働運動の過激化に就ても亦露國過激派の運動を警戒せる跡あるは、之を掩ふべからず、即ち自から過激派政府の代表者として倫敦に到れるカメネフ氏に對してはロイド、ジョージ氏の態度甚だ冷淡を極めたるもの、如く、カメネフ氏の發表せる所を以てすれば、ロイド、ジョージ氏は露國過激派政府との間に最早や平和に關する交渉を繼續するの必要を認めずと做し、少くともカメネフ氏の將に倫敦を去らんとするに際しては、彼れは却て其の面會をさへも極力之を回避せんとせる氣勢あり、殊にカメネフ氏との最後の會見に於てロイド、ジョージ氏は(一)露國の寶石が英國に於て或種の目的の爲に利用せられたる事(二)過激派の對ヘラルド紙補助(三)過激派實行局との關係(四)過激派政府の對波斯休戰條件の變更等を列擧して、カメネフ氏を詰れるもの如く、カメネフ氏は之に對する辯解を試みつゝロイド、ジョージ氏の態度既に斯くの如くんば、予も亦長く英國に留まるの要なしと做し、乃ち遂に露國に向つて去れりと傳へらる。

## (三)

而も所謂露國寶石の利用が何の爲めにせられたるかは、ヘラルド紙の補助問題と關連して、最も興味ある事實とすべく、デーリー、メール紙先づ之を暴露して、而も最も痛烈に之を追窮する所あり、メール紙は是れより先き一ヶ月リトウイノフ氏又はチエリン氏等の間に往復せられたる無線電報を暴露して、露國の過激派が英國に於ける同派の政策を有効にせんが爲めに、デーリー、ヘラルド紙に補助を與へ、私かに其機關紙たらしむべく交渉せる秘密を傳へ、ヘラルド紙に否認せるも、一ヶ月を経過して九月初に至り(一)同紙の一記者フランシス、メイネル氏を通じて過激派が七萬五千磅の補助を申出せる事實(二)メイネル氏が昨年(一九一九年)九月及び十月の交、エストニア、フィンランド、スカンデナヴィヤ旅行中、過激派代表との間にヘラルド紙の財政状態に就き個人の資格を以て論議する所ありたる事(三)同氏は又徐々に數個月に亘りて廣く七萬五千磅の資金を蒐集するに賛成せる事(四)而も此の資金は之

を第三國際主義宣傳の爲めに費消すべく、但しヘラルド紙にして其の必要を生ずる場合は之を使用する事を得る事(五)同資金は現にメイネル氏の所有に屬する事を公表して、メール紙の追窮に應へ、同時に英國政界の疑惑を解かんと努むる所あり、唯だ其の辯解の甚だ曖昧にして却て益々追窮者の興味を唆れるは笑止千萬と做すべく、ヘラルド紙は其の一般讀者に向つて過激派の申出に係る七萬五千鎊を受理すべきや否やを問ひ、宜しく之を受くべしと言へる一部讀者の手紙を公表して自ら懣め或は自ら辯疏せん氣勢を示せるも、英國労働社會の大立物にして豫て英國政界に重きを爲せるトーマス氏の所見は、此等ヘラルド紙の一部讀者乃至ヘラルド紙自身の態度と聊か其の趣を異にし、眞に冷水三斗を注げるの感なくんばあらず。

## (三)

即ちトーマス氏はヘラルド紙の社長ランスベリー氏に對し一書を贈つて曰く、我等英國の労働者にして眞にヘラルド紙を要すとせば、我等自ら此が資金を醸出すべく、

露國過激派の補助を受くべきや否やの問ひに對しては、予は直ちに否と應ふるに躊せず、露國の過激派は宜しく露國の人民と共に其の運動を爲すべく、苟くも英國の労働者が彼等の補助に俟てる日刊新聞を有すと云ふが如きは我等永遠の恥辱にして、且つ英露國間の平和の爲にも、却て誤解を來すべき懼れありと、トーマス氏は更にヘラルド紙が過激派の申出を受理せりとの風評に關して、ランスベリー氏の正直を信じて疑はず、乃ち世間に對する同氏の否認を見るも、氏がメイネル氏と過激派との交渉に就て、全く興り知らざるを信ずと言ひ、他の労働者が動もすればヘラルド紙の態度に雷同し、若しくは裏書きせんとせると、全く其の態度を異にせり、而もランスベリー氏の所謂正直に就ては、メール紙之を冷評して皮肉を極め、古來正直者は早世すと言へるに拘らず、ランスベリー氏は今や齡六十一の紳士也、然り彼れは恐らく歴史的の正直者也と言ひ、現に氏がヘラルド紙は過激派より一片も一留も之を受けたる事なしと言へる辯解を嘲笑し、事件發生後遽にヘラルド紙の編輯局を去り、又倫敦より其の姿



をかくせるメイネル氏の在所を追窮して、否應なく其の辯疏を要求せる等、最も深刻を極めたり、ランスベリー氏の正直と否とは予の敢て知る所にあらず、然れども事實はメイネル氏以外ランスベリー氏の子息エドガー、ランスベリー氏また七萬五千磅の問題に係る形跡あり、メール紙の口調を藉りて言へば、實に父ランスベリー氏は自身と同一の家屋に住居し、僅かに數室を隔て、起臥せる人の秘密をさへも知らざる正直者なりき。

## (四)

斯くてヘラルド紙問題に結論を與へたるものは、英國政府當局の公表文書也、是れ實はカメネフ氏の發表する所に應へたるものと解すべく、同文書はカメネフ氏が英國に於て露國の寶石を四萬磅に代へたる證據を有すと明言し、而も其の賣得金がヘラルド紙の手に入れる事實と、更にカメネフ氏が總計六萬磅を得んと努めつゝありたる事實を暴露し、殊にヘラルド紙の記者をしてランスベリー氏の子息たる前記エドガー、ラン

スベリー氏が自ら寶石賣得金(紙幣)の一部を手にするを明記し、之が爲めに同子息は警官の訊問を受けたる事實を附記せり、蓋し政府側の言ふ所に依ればエドガー、ランスベリー氏が警官の訊問を受けたるは九月十日の事にして、ヘラルド紙は此の日急遽其の七萬五千磅問題に關する讀者の所見を叩くが如き態度を示し、從來一片、一法若しくは一留をも過激派の補助を受けたる事なしと明言し、斷言し、確言せるに拘らず、遽に其の態度を變じて、假令過激派の補助を受くるも、是れ實に國際社會主義の爲めなりと言ふに至れりと傳へらる、ヘラルド紙は倫敦に於て、勞働者社會の有する唯一の日刊新聞也、唯だ其の經營に就ては、豫て必ずしも樂觀を容さず、ランスベリー氏は一週間千磅(一萬圓)宛の損失を來しつゝあるを自白し、同時に露國過激派のチチエリン氏との間に英國に於て同派の機關紙發行に關し相語る所あり、爾來過激派がヘラルド紙の補助に就て種々の工夫を廻らせるは、殆ど否むべからざる事實なりとす。(一九二〇、九、一七)

## 除隊兵善後問題

(上)

失業者若しくは無職業者救済問題は、休戦後、英國社會の豫て期待せる所にして、政府當局また固より之に對する施設を忽にせざるも、其の除隊兵の始末を如何にすべきかに關しては、少くも未だ十分の解決を見たりとは做すべからず、即ち一昨年九月除隊兵組合を發企して、一種の機關紙を創刊せる一派の所説に依れば、當時尙は廿萬人の無職除隊兵あり、政府當局者及び一般社會に向つて、之が救済の急を説き、同時に彼等の窮狀を訴ふるに深刻なりし結果、益々世間の注目を惹けるものゝ如く、最近倫敦市長の如きも亦、之に對する一種の調査委員を設定せりと報せらる、蓋し除隊兵一般の傾向は、必らずしも危険なる思想に感染するの虞れを有せず、現に前記除隊兵

組合の機關紙の如きも、苟くも英帝國にして戦争の爲めの大負債を償却し了はる迄は如何なる工場閉鎖も、同盟罷業も、到底之を合理視する能はざる旨を宣言せる事實あり、但し茲に大負債と云へるは、固より金銭上の負債を指せるにあらずして、除隊兵に對する國家の義務を意味せるや、勿論なりとす、即ち政府當局及び一般社會の施爲にして好意的なるに於ては、除隊兵の思想を危険化するが如きこと、毫も是れあるべからず、而も現在除隊兵に對する善後處分は、要するに彼等の爲に各々其職を與ふる以外、別に好個の方法なきに於て、或は彼等の爲めに土地を購求して、耕作の業に従はしめん企畫を有し、或は既に之を實行しつゝある者なきにあらずと雖も、固より未だ十全なりとは做すべからず、況や失業者の救済問題は、啻に除隊兵又は戦時軍需品工業に従事せる工女の多數失業者に向つても亦、等しく之れを考慮せらるべき事情あり、各種の産業が所謂不景氣時代に遭遇せるに當つて、旁困難なる問題と言ふを憚らず。

(中)

露國過激派の補助を受けたりと云へるデーリー・ヘラルド紙創立者にして、又其の記者たるジョージ・ランスベリー氏は、最近世間の七萬五千磅問題に驚倒しつゝある間に、寧ろ或は毒皿主義的態度を以て失業者問題に論及し、人或は平和來を説くも、眞の平和は來らず、失業者は世間に充滿し、而も生活難、物價騰貴問題は、日一日切迫し到る、是れ何の平和ぞ、宜しく大に産業を振興せしめて、生産の潤澤を圖るべく、乃ち物價の騰貴を防ぎ、失業者を救済する所以と做し、更に産業の振興を圖るに就ては、宜しく又露國との平和を完成し、露國の富源を利用するの工夫を要すと言へり、是れ或はランスベリー氏の言なるが爲めに、聊か他の苦笑を禁じ得ざらしむべき理由あるも、其の人の爲めに其の言を排すべからずとせば、英政府當局又は一般社會も亦失業者の問題と生活難と物價調節問題とを併せ考慮して、最善の努力を要するや勿論なりとす、即ち倫敦市長の如きは、除隊兵又は失業者善後の一策として新事業の計畫

をも考慮しつゝありと推すべき事情あり、一九一八年來早くも労働大臣の下に設定せられたる海外居留地委員は、更に一九一九年新設の臨時海外職業局と相俟つて、除隊兵中、海外移住を希望する者の便宜を圖り、特別の場合は彼等の渡航に對して、三等無賃の制度を認許せる旨、某新聞記者に言明せり、唯だ除隊兵即ち特殊技能を有せざる労働者の爲めに、如何なる事業を計畫して可なるべきか、彼等の爲に政府が幾何の經費を支出し得るか、是れ甚だ覺束なき問題にして、同時に未だ明快なる解決を見ざる所以也。

(下)

予は此の稿を終はらんとして、更に今朝の新聞が、九月十八日まで一週間に亘りて、除隊兵團體組織の協議ありたるを報道せるを見、且つ彼等が除隊兵の雇傭並に其の勞銀率を設定し、而も各團體が平和と善良なる意識の増進に努めんとする者なるを解せり、彼等は又特に婦人部會を設けて、除隊兵關係の婦人及び軍需工場關係婦人の團體

を作らんとす。(一九二〇、九、二〇)

二四

## 内政外交の種々

### 失業者問題

失業者の問題に就いては、予は曩に之を除隊兵問題に關連して、少しく記述する所ありたり、而も此の問題は生活費問題若しくは寧ろ物價問題に關連して英國現在の重大案件たるを失はず、食糧大臣マツカーデイ氏は本年クリスマス頃の頃に至らば、勞働者一家族の生計費は昨年クリスマス當時に比し一週間九志(一志は我が約四十八錢)六片(一片は約四錢)の増加を免かれざるべき旨を演説して一部新聞の批難を惹起し、是れ食糧當局自ら物價吊上げを唆るものなりと攻撃せられたるも、倫敦市民の物價に

對する神經、甚だ鋭敏なるものあり、而して實際に於て物價の騰貴また止む所を知らざるもの、如く、或は之を金錢と富との混同に基くと做し、自ら學者的説明を加ふるものあり、即ち消息通の觀測に依れば、輸入肉類及び茶は一年前に比して下落を示し牛乳及び馬鈴薯は一年前と兎も角同値を持續しつゝあるも、其他は一齊に騰貴を免かれず、戰前に比して大體二十六割七分の高値に在りと云ひ、或は更に前記マツカーデイ氏の計算に對して、九志六片は恐らく三志十片に止まるべしと做す者あり、然も要は之が救濟若しくは前後策如何に在るべく、當局も政治家も一たび此の點に觸れ至れば、必ずしも的確なる意見ありとは做すべからず、即ち何人も生産を旺んにして、一面失業者の就職増加を圖り、他面に物資の供給を潤澤ならしむべしと做すのみ。

### 産業國有問題

失業者問題、物價問題と關連して産業國有問題あり、之を時事問題と做すべきか否

かは、聊か疑はしく、或は最近年に於て英國若しくは列國の懸案又は宿題と做すを妥當とすべきかを知らざるも、兎も角失業問題、物價問題乃至生産問題を論議する者、當さに國有問題に觸れ至るべきは明か也、但し予は此の通信に於て産業國有の内容是非を説述するの餘裕を有せず、然れども此の問題は應て社會主義の問題或は共產主義の問題と關係して、最も慎重なる詮索を要するものと解すべく、英國に於ては炭坑夫組合側に在つて一二年來切りに炭坑國有論を唱説せるも、現存英國議會は之を否認するの態度を取り、現に炭業管理の事さへ期限を付して之を承認せる事實あり、若し夫れ一般産業の國有に就てはシドニー、ウエツプ氏一派の如き必らずしも過激ならざる社會主義的評論家の間にも、夙に之を唱説せられ、其の過激なる者に至つては、固より之を必至、當然の運命とする者の如く爾り、而も英國に於て最も熱心なる國有論者は、レオチヨツザー、マネー氏と爲すべく、氏の著作に係る「國有策の勝利」は、戦時政府の各方面に對する生産管理に關する實例を引用して極めて樂觀的に國有の強所を

説述せるも、一部の批評家若しくは英國多數の批評家は、却て其の餘りに樂觀的なるを笑ひ、マネー氏にして戦時の産業管理が如何に強大なる壓力の下に遂行せられたるかを知らば、平時に於て如何に其の實行の困難なるかを推し難からすと云へり。

### 過激派と英國

さもあらばあれ、産業の國有を嘆美して、共產主義、第三國際社會主義を謳歌せるもの、未だジョージ、ランスベリー氏の如き者あるべからず、予はヘラルド紙對露國過激派問題に就て、ランスベリー氏の事に説き及べり、氏は實にヘラルド紙の創立者にして、且つ其の記者也、氏の著作「露國見聞」を讀む者は、如何に其の過激派の思想及び施設に隨喜せるかを知るべく、即ち氏の所見を以てすれば、宗教、教育、政治一齊は、唯だ露國に於て其の本然の宣布、施行、發達を見つゝあるものとすべく、實に産業國有の難有味は、過激派治下の露國に在つてのみ、之を實驗せらる、此の過激

派心醉家たるランスベリー氏か、ヘラルド紙の補助問題に關して、忽ち狼狽の風を掩ひ能はず、過激派より一錢一厘をも補助を受けたる事なしと辯解せるは、甚だ御苦勞なるも、英國の一般社會は、彼等が豫て推想し、又期待せる所なるに拘らず、過激派の對英宣傳に對しては、自他共に相警め且つ戒めつゝあるの風あり、即ち彼等は紐育に於ける爆彈事件に關してすら、此の計畫の裏面殊に其の計畫費の出處等に就て、背後の勢力を究むるの要ありと做し、内實過激派の運動を疑ふの風あり、勢ひ英國に於ける共產主義的、過激派的論議に對しては、始終綿密なる注意を怠らず、ランスベリー氏等の對露平和促進の論議に對しても、頗る慎重の態度を持しつゝある者と解せらる、況や露國に向つては、其の波瀾に對する態度に就て不滿を免かれず、過激派對愛蘭問題に關しても、少からぬ疑惑を有する事情あるに於て、平和の促進容易ならず。

### 首相と外交

唯だロイド、ジョージ氏が露國に對する外交の、必ずしも一定不變ならずして、或は却て露國當局者をして、批難の餘地を發見せしめ、波瀾に對する態度の確實ならざるに就ては、英國政治社會に於て種々の批難あり、メソボタミヤ問題に就ても早く英國政府の方策を難する者なきにあらず、要するに外交にかけてはロイド、ジョージ氏到底落第を免かれずと酷評せらる、而も内政に就ても亦氏が其の所謂「南瓜を化して寶石箱」と爲すの手腕を以てして、往々批難を惹起するものあり、愛蘭問題に關してはアスクイス氏一派の大々の攻撃あり、印度の近情を如何するか、埃及の施設を放置し得るか、凡そ此等の問題はロイド、ジョージ氏をして、殆ど應接に遑なからしむるものあり、延いて又聯立内閣論に及び、是れ實に虚偽の内閣也、英國は此種の内閣の存立する間、到底政治上の進歩を期すべからずと絶叫する者あるに至る、而もロイド、ジョージ氏が最近アイルフォードの補缺選舉候補者に贈れる書翰中「過去廿年間、老齡にして不健康に且つ失業状態の下に在り乍ら、事實多くの進歩と利益を獲得し、今

や強大なる槓杆を左右しつゝある英國の立憲的政策を放棄するが如きは、英國民衆の爲めに百害ありて一利なし』と言へる一齣は、流石に過激的思想を排して、其の立憲的所信を表明するに於て、萬丈の光焰を吐く者と倣すに足れり。(一九二〇、九、二五)

## 英首相對三坑夫

### (一)

炭坑夫ストライキ問題の形勢、聊か澁滞の風ある間に、彼等が豫定のストライキ斷行期日は、刻々倫敦及び英國一般社會を脅威せん事情あり、ロイド、ジョージ氏は遂に九月十四日數週間目の内閣會議を召集凝議する所あり、當局側に在つては、之を必ずしも坑夫組合のストライキ問題のみに關係せず、寧ろ一般產業界の形勢に對して、政府將來の方策を決定せんとするものなりと解せるも、事實に於て、坑夫のストライ

キに對する對應策の考究に在りたるは否むべからず、唯當局は容易に坑夫側に向つて屈讓的態度を執らんとはせず、閣議の經過に就ても、坑夫の態度變改せられざる限り、政府も亦再考の餘地なしとするの風ありき、而も坑夫側に於ても、流石にストライキ斷行までには種々困難の事情あるを否むべからず、政府側新聞の傳へたる三角同盟會員の女房達が、却てストライキ反對の氣勢を峻りつゝありと云へる風説は、勞働社會の機關紙に依りて直に否認せられたるも、兎も角坑夫組合の一部に尙ほストライキ阻止の僥倖を期待したる者ありしは、之を掩ふべからず、乃ちスマイリー氏以下坑夫代表委員が、更に其の要求に就て協議を重ね、十六日改めて商務大臣ロバート、ホーン氏と會見するに至れる一事は、彼等自から何等かの所存を生じたる結果に因らずんばあらず。

### (二)

果然坑夫組合の政府に對する要求は、最初の會見(前報)に於けると多少其の趣きを

異にせり、即ちスマイリー氏が「一にして二ならず、切離するを容さず」として提起せる(一)一週間二志増給の件、並に(二)石炭一噸に付十四志二片値下の件は、改めて之を切離して、坑夫側は先づ其の増給を求むべしと做し、同時に此の増給を行ふが爲めに、炭坑主をして石炭の一般賣價を引上げしめざらん保證を要すと做せり、既に一聯にして離るべからずと言へる要求を分割して、兎も角も増給の即時決行を求むるに至つて、坑夫側は少からぬ讓歩と解しつゝあるも、之を政府側より言へば、彼等の増給は、炭坑主の利益が最近年額六千六百萬磅に上りつゝありと云へる計算に根據せるものにして、之を當局よりすれば、固より杜撰なる計算たるを免かれず、即ち當局側の計算に依れば、本年六月に至る三箇月間の炭坑主所得高は僅々七十五萬磅にして、坑夫組合の推算と多大の懸隔を見るべく、勢ひ坑夫組合の計算を根據とせる増給を首肯する能はずと做す、唯だ夫れ増給其の事に就ては當局と雖も、勿論同情を以て之れを考慮すべく、特に坑夫の事業に對しては、其の危険の程度に顧み、十分の諒解を持

すべきを宣明し、同時に増給は、石炭の採掘高之を關連して考査するを要するが故に、裁判の判決に委するを妥當と做せり、蓋し當局は坑夫組合の計算を認めず、從つて之を根據とせる増給、即ち石炭の賣價を据置きて、彼等の勞銀を増加すべしと云へる論理を否認せるを以て、坑夫の増給を認むるに就ては、別に之が財源を考慮し、且つ出炭高をも考慮すべき理由なきを得ず、況や炭坑の永久管理は現存英國議會が、多數を以て之を否認せる事實あるに於て、當局としては此の以外、解決の途を發見する能はずとす。

## (三)

然れども産業裁判は、豫て坑夫組合の極力之を回避せんとする所也、即ち坑夫代表委員は假りに出炭問題を裁判の取扱ひに委するも、少くも増給の件は、其の以前政府の斷行を求めざるを得ずとし、増給問題と出炭問題とを切離せんと努め、十六日の會見は更に一旦二十日まで延長せらるゝに至れり、實に倫敦若しくは英國の一般社會に



取つては、此の日の會見は、坑夫組合及び鐵道從業員組合、運輸業者組合の所謂三角同盟大ストライキを見るべきか否かの運命を決すべき重大會見と做すべく、新聞は一齊に其の結果に向つて耳目を注ぎ、讀者も亦夕刊の發行を待ち兼ねたるの風ありき、而して其の結果は遂に不調を免かれず、商務大臣は出炭問題を後日の解決に譲り、兎も角増給の件を先決問題とするに同意するも、増給の理由が生活費の増加に關連せる以上、依然裁判の決定に俟つを穩當とすと言ひ、若し此の裁判が遷延するの惧れありとせば、特に豫め其の進行を急ぐべきを約し、少くも其の決定次第、増給は之を十月一日より實行せんことを宣明せり、而も坑夫組合委員殊にスマイリー氏は、即時増給を求めて止まず、改めて商務大臣に訴ふるに、坑夫生活及び其の勞働の危險を説くこと最も深刻を極め、乃ち新聞記者の批評を以てすれば、彼れ及び其の同志は甚だ沈鬱なる面色を呈しつゝ、遂に商務省を退去せり、斯くて炭坑夫組合を先驅とするストライキの形勢は、殆ど今や拾收すべからざるに至り、三角同盟は二十二日之に對する最後の措

置を爲すべく、五百名に上れる代表者會議を開き、一面坑夫側の女房達にして、ストライキ抑止の意向を有するものは、形勢非なるを見て、續々炭坑地より倫敦に到れり。

## (四)

炭坑夫等にして其の一週間二志の増給に關し、十二分の理由を有し、且つ根據を認むるものとせば、彼等は故に裁判の審理を拒否するの理由あるべからず、況や商務大臣既に審理の遷延する事なかるべきを約し、十月一日より必ず増給を實行すべく宣明せるに於て、坑夫側の態度に尙ほ多少緩和の餘地あるべしと做すもの、即ち多數新聞の論調にして、同時に彼等は三角同盟最後の會議に於ける決議に對して、多少の望みを繋ぎ、又或はトーマス氏、クラインズ氏等の調停を期待するの氣勢ありき、而して彼等の此の期待は、流石に穩健の風評あるトーマス氏に依りて實現せられ、氏は運輸業者組合が早く既に坑夫組合のストライキを認むるに決したる間に、換言すれば三角同盟の二組合が、ストライキ斷行に決定せる間に、獨り鐵道從業員組合を提けて、更

に形勢緩和の餘地を發見すべく、二十二日の三角同盟代表會議に於て、改めて又ロイド・ジョージ氏との會見を提議する所ありたりと解せらる、蓋し此の提議は一部強硬派の喜ばざりし所なるも、一面又首相の態度に就て望みを繋ぐ者あり、坑夫側に在つても商務大臣以上、ロイド・ジョージ氏に何等かの腹案あり、且つ坑夫側に對する同情あるべきを推して、同氏との再應酬を認むるに至れり、斯くてスマイリー、トーマス、ホツヂス氏等三角同盟委員會の代表者は、二十二日夜ロイド・ジョージ氏を訪問し、特にトーマス氏は鐵道従業員五、六萬人の組合領袖として、坑夫のストライキに關連する種々の事情を陳述し、首相また之に應じて當局の所信を語る所あり、要するに(一)政府と坑夫組合と生活費の増進率と増給率との比例に關して、其の見る所を異にする以上、問題の解決を裁判の審理に委する乎(二)若しくは坑夫組合自ら坑主側との調査又は協議委員を設けて、先づ出炭の増加を圖り、依て以て増給の理由を作る乎、二者其の一を擇ぶべしと做すもの、首相の意見にして、三角同盟委員の態度、流石に首相

の雄辯と老獪とに怯み來れるの傾きなきにあらず。

(五)

即ちロイド・ジョージ氏の所説に依れば、英國の出炭高は戰爭前年額二億八千七百萬噸なりしもの、本年三個月の成績より推算すれば二億三千二百萬噸に減少すべき事情あり、之を坑夫個々の成績に見るも、少からぬ減退を示し、而も炭坑經營費に至つては、著るしき増加を免かれず、是れ國家の最も考慮すべき問題なるを以て、坑夫及び坑主協議の下に先づ此の問題を解決し、出炭の増加を圖るに於ては、政府も坑夫の増給に向つて努力すべく、其の増加率の如きも、或は現在坑夫の要求する一週間二志以上に上るべきを信すと云ふに在りて、スマイリー氏も亦出炭の増加を圖るべく坑主側との協議を開くこと困難ならずとするが如き口吻を漏らし、問題は茲に多少の光明を認め來れるも、尙ほ果して増給の急速實行を期し得るや否やに就ては、彼等自ら懸念の情なきを得ず、斯くて三角同盟委員會は二十三日午前、以上の経過報告を聽くべ

く第二日目の會議を開けり、而も問題は既に此の委員會にあらすして、寧ろ同盟代表者の會合に在り、更に適切に言へば、坑夫組合代表者の意向如何に在り、何となれば三角同盟中、鐵道従業員組合は現に坑夫組合のストライキ斷行を見合せしめん意向を有し、運輸業者組合側に在つても、政府當局殊にロイド・ジョージ氏の所見に顧みて可成的にストライキを中止して、獨立裁判の審問に付せしめん意見を表明し來りたれば也、即ち廿三日の三角同盟聯合會は、開會後直ちに三組合個別の會合を開くに決して、其の儘散會し、一般社會は就中坑夫組合の形勢如何を注目する所あり、新聞紙の報する所に依れば、此のロイド・ジョージ氏はスマイリー氏との間に、二回の文書を往復せりと傳へらる。

## (六)

ロイド・ジョージ氏の提議、即ちスマイリー氏に對する文書の内容は、政府の立案に係る出炭高と坑夫増給との關係を、スライディング、スケールに依りて加減せんとす

る方策にして、當局は豫め一週間一志乃至二志、三志の増給を假想し、斯くて坑夫組合の同意を得んとすると共に、飽まで増給と出炭高との關係を維持せんとするに於てロイド・ジョージ氏の老獪振りを看取し難からず、唯だ坑夫組合は曩に二志増給の時實行を要求せる事情に鑑み、容易にロイド・ジョージ氏の提案を容れんとはせず、スマイリー氏の如きは一面首相に向つて其のスライディング、スケール案を拒否しつゝ、他面に在ては廿三日夜來熱心に坑夫組合の緩和に努めたるも、廿四日却て五十四萬五千票對卅六萬票の少數(代表投票)を以て敗れ、ストライキは最早殆ど阻止すべからざるの羽目に陥り、トーマス氏以下鐵道従業員組合、運輸業者組合の領袖、各其の雄辯を以てせるも、形勢の挽回恐らく不可能と見えたり、仍て坑夫組合委員は廿四日復又首相ロイド・ジョージ氏を訪問、懇談する所あり、ジョージ氏も亦流石に形勢の緩和困難なるを見て、曩に既に提議せるスライディング、スケール案の成案を示し、出炭増加に關する坑夫對坑主側の交渉の如きは、恐らく一兩日にして決定し得べく、乃ち政

府の腹案を實行すること、決して遅延する事あるべからず、兎も角も當局は、現在坑夫の地位若しくは勞銀に對して不利を來さざるべきを力説せり、乃ちスマイリー氏等また到頭之を納得し、廿五日公表すべく豫定せられたるストライキの宣言は、一週間之を延期し、其の間坑夫組合は委員を擧げて、坑主側委員と出炭増加の問題を協議するに決せり、見よ、ロイド、ジョージ氏は遂に坑夫組合の増給問題をして、出炭額問題と聯繫せしめ終れる也。

## (七)

斯くて坑夫側對炭坑主側の出炭問題に關する評定は、廿五日より直に開始せられ、新聞は一般に其の順當なる進行を報じ、偶々ウエールス地方の炭坑夫團體が強硬なる態度を決して、一週間二志の増給を執行せられざる限り、出炭問題を協議すべからずと做し、電報を以て同地方選出委員の引揚げを求めたる爲め、スマイリー氏の態度如何も亦勢ひ問題と爲るに至れり、即ち各新聞の觀測を以てすれば、スマイリー氏にし

て自らウエールス他方の形勢を抑ゆるの意向あらんには、ストライキを阻止し、同時に又眼前の問題を解決すること、必ずしも至難ならずとせるも、坑夫組合委員對坑主代表者の協議は、二十九日に至りて遂に談判不調に終り、一般社會の危憂忽ち増進せるの跡あり、而も首相ロイド・ジョージ氏は固より之を以て、事早く終れるものと做すを欲せず、彼れは十一月一日更に坑夫側並に炭坑主側を商務省に會し、自らロバート、ホーン氏及びボナー、ロー氏と共に之に接して、尙ほ調停に努むる所あり、協議果て、一杯機嫌の首相は、食事を共にせる前記各代表者等との間に、快談縦横の觀ありたりと傳へらる、蓋し此の日の協議は、豫て首相の提示せる出炭量の標準率に就き英國の出炭年額二億四千萬噸に達する場合は、坑夫の勞銀に對して一週間一志、同上二億四千四百萬噸に達する場合は一志六片、同上二億四千六百萬噸に達する場合は二志を増給すべしと云へる炭坑主側の提案に向つて、結局改めて坑夫聯合會の投票採決を行ふに決し、ストライキの宣言は再び十月十六日まで之を延期し、十一日及び十二

日の兩日に亘りて、各地坑夫組合の投票を行ふ事と爲れるものと解せらる。

## (八)

此等各地坑夫組合の投票が、果して炭坑主側の提案を是認するや否やは、固より尙は疑問なるも、本年八月ストライキ案に對する投票の結果に徴すれば、當時之に賛成せるもの六十萬六千七百八十二票、同じくストライキ反對投票廿三萬八千八百六十五を算したる事實あり、而もストライキは全投票數の三分の二を要する規程なるを以て當時此の規程數を抜くこと四萬三千餘票に過ぎず、今回の再度投票が能く此の票數を得るか否かは、今後組合内部に於ける硬軟兩派の運動如何に依るべく、最も強硬なるウエールズ地方は暫らく之を措くも、其他に在つてはストライキ反對の氣勢も亦、弱からずと推すべき事情あり、殊に前記炭坑主側の提案に依れば、本年既往の出炭成績に見て、一週間二志の増給は、略ぼ決定せるものと解し得べき事情あり、旁たストライキ反對の宣傳も相應の反響を豫期し難からず、唯だ坑夫當初の決心は、増給と出炭

問題とを關連せしめざるに在り、中途ロイド・ジョージ氏の爲めに之を事實上に破却せられたるも、再度の投票が復又當初の決心を回顧するの機會を齎らせるは疑ふべからず、實に首相の言へるが如く、英國に在つては石炭は即ち金也、炭坑夫の問題容易に輕視するを容さず。(一九二〇、一〇、二二)

## 愛蘭問題の論評

## (一)

予の淺學と此の簡單なる通信とを以て、愛蘭問題を説明せんは、固より不可能にして、且つ予の期する所にあらず、唯だ近日愛蘭の状態は、殆ど無政府若しくは或政府と政府との戦争状態に在りと做すべき理由あるに於て、英國の新聞が現在愛蘭を如何に觀察し、或は論評しつゝあるかを報道せんとするのみ、即ちダブリン市を中心とし

て、所謂シンフエン黨が巡查を殺傷し、良民を殺害し、更に之に對して所謂ブラツクエンド、テン（所謂鳶色）なる者の復讐戦あり、官公の建築物等に焼かれ、人心眞に競々たるの風あるに就ては、英國政府も亦流石に其の永き傍觀又は放置的態度を改めて、公安維持の策を執らざるべからざる事情あり、所謂ブラツク、エンド、テンなる者の復讐戦が、内實政府側若しくは英國陸軍當局の指導する所なりと云へる風評に就ては、容易に其の真相を捉ふるを容さず、或は捉へざるを以て、英國政府に深切なる所以を做すべきやを知らざるも、シンフエン黨の狂暴に向つて、所謂血を以て血を洗ふが如き手段に出でんは、決して愛蘭問題を解決する所以にはあらず、抑もシンフエン黨をして、今日の狂暴を敢てせしむるに至れるもの、之を英國前首相アスクイス氏の評言を以てすれば、要するに短見なる政治家の過失に出づ、實に彼等がレッドモンド氏の死後、漸次國民黨を壓倒して、其の勢威を暢し來れるは、大戦争中徴兵令の施行を機會せるに因ること、何人も之を否むべからず、現にアスクイス氏の如きは、

當局にして今少しの熟慮を費したらんには、假令徴兵の適用を見るも、尙ほ今日の如き状態に立至ることなかりしならんと言へり、是れ蓋し一九一四年の秋に於て漸く議會を通過、公布せられたる愛蘭自治案は、爾後幾多の曲折を経て一九一八年辛く愛蘭國民議會の可決を見るに至り、將に其の報告を公にせられんとす。刹那、英國政府の當局愛蘭に向つて徴兵令適用の法案を提出せる結果、忽ち愛蘭の大紛亂を誘發し、折角多年の努力に依りて確定せる愛蘭自治案の實現を阻止せるの感あれば也、殊にアスクイス氏を以て觀れば、彼れは嘗に自治案と多年の因縁あるのみならず、自家の内閣を内部より打壞して、目前聯立内閣の首位に居れるロイド・ジョージ氏の政治振りに對して、最も不滿の氣あるを掩ふべからず、乃ち勢ひ自治案をして彼れが如き難處に陥れたるに就て、深刻なる批評を避け能はずと雖も、兎も角も自治案に對する光明が偶ま徴兵令適用の爲めに再び雲霧の裡に掩ひ去られたるは、否認すべからざる事實なりとす。

而もロイド・ジョージ氏は當時、アスクイス氏の戦時政策を緩漫なりとして、自から取つて代はれる事情に顧み、所謂壯丁を「梳出す」必要あり、獨り國家の危急に際して愛蘭を恐れ、且つ敬遠するの必要あるべからず、是れ其のロイド・ジョージ氏が徴兵令の愛蘭適用を斷行せる所以にして、一部英國国民中には、尙且つ其の適用振を手緩しと做せる者なきにあらず、唯だ不幸にして愛蘭自治案が、遂に之が爲めに其の實現を見る能はざりしは、洵にロイド・ジョージ氏に取つて笑止千萬と爲すべく、特にアスクイス氏をして短見の結果と稱せしむるに至つて、彼れ亦私かに切齒せるやも、未だ知るべからず、アスクイス氏の曰く、假令愛蘭の壯丁を徴發するも、其の數に於て幾何ぞ、其の從來の反抗的感情に鑑み、彼等が戰場に於ける成績乃至價值に於て幾何ぞ實に予は之を是れ察したるが故に、予自ら内閣の首班に在る時、愛蘭に向つて徴兵令を布く事を敢てせざりしのみと、アスクイス氏の口吻は時として凱旋將軍の如くロイ

ド・ジョージ氏を貶し去らん趣なきにあらず、アスクイス氏は又曰く、當局は愛蘭自治案の善後に就て、其の後何を爲せるや「一九一八年は空しく去れり、一九一九年も空しく去れり、而して彼の徴兵令の爲めに阻止せられたる愛蘭自治の事は、今尙徒らに遲滞し居るにあらずや」と、ロイド・ジョージ氏は一九二〇年即ち本年に至りて自治案の修正新案を提出して、アスクイス氏の所謂前後の措置を執らんと試みたるも、曩に既に徴兵令を機會に勃發せるシンフェン黨は、容易に其の狂暴を制し難く、殊に自治欲求の望みを擴げて、更に愛蘭の獨立を呼號し、露國過激派乃至米國民一部との對外關係をさへ風評せらるゝに及んで、之が善後を全うせんこと至難なりと言はざるを得ず、而も今日に在つては、問題は其の原因にあらずして事實也、眼前の實相に處すべく如何にするか、是れ大なる問題也、而して最急切なる問題也、換言すれば、警官殺され、官衙焼かれ、シンフェン黨と政府側と、宛然戦争状態を現出しつゝあるに對して、如何にして有効なる措置に出づるかを問題とす。

グレイ子はアスクイヌ内閣當時の外務大臣にして、現内閣と固より亦親善なる政治家の一人也、子は頃日一個の愛蘭方策を發表し、少からず世間の注意を惹起せるもの、如く、各派政治家、新聞の批評も亦盛んなるものあり、而も子の愛蘭對策は要するに外交並に陸海軍備以外、一切を舉げて愛蘭の自治に委すべく、二箇年以内に之が實行を約すべしと云ふに在り、子の以爲らく、現在愛蘭の状態を以てしては、北方に於て是認せらるゝ自治案は、却て南方に於て反對を惹起し、南方に於て是とするもの北方に於て、否認せらるゝの實情に在り、問題の根本的解決、斯くて甚だ困難なるを以て、英帝國當局は宜しく軍事外交の統一に満足し、他は舉げて之を愛蘭民の自治に任せて可なりと、政府側の新聞は此の所見及び提案に向つて、必ずしも露骨なる反對を表せず、假りに此の案の實行に就て、或は猶ほ北米獨立戰爭の結果を再現するものなりと言ひ、或はシンフエン黨の勝利と做し、英帝國の衰亡之より始まると言ふものあり

らんも、斯くの如きは固より齒牙にかくるに足らずとし、若し西班牙にして其の放棄すべき時に放棄すべき者を解したらんには、彼れ未だ今日の如くならず、羅馬にして能くライン、ダニユープの線を放棄すべき時に放棄したらんには、更に其の光譽ある勝利の歴史を赫々たらしめ得たるなるべし、乃ち英帝國また之に鑑むべきを諷せり、然れども彼等は愛蘭今日の禍亂が、英帝國あるが爲めにあらずして、實に愛蘭内部の不統一にあるを看過する能はず、彼等は問題の真相は愛蘭の南と北とに在りて、英國その者にあらずと做し、假りにグレイ子の提案を實行せんか、忽ち又愛蘭の内紛を激成すべく、到底其の和合を期すべからずと做す、此の説は自由黨系の新聞に於ても亦大同小異に唱說せられ、グレイ子の案が實行容易ならず、或は其の結果必ずしも難局の平定を期すべからざるは勿論なるも、當局が最早現在愛蘭の状態を放任すべからざるは、何人も之を確認する所にして、彼等若し尙ほ傍觀せば、愛蘭は宛然小露又は波蘭の状態に陥るべしと言へり、唯だ政府に反對ならざるも、強ひて之を辨護せざるも



のに在つては、最近愛蘭の爲態に對して政府果して對策あるか、若し是れ有りとせば、彼等は何時、如何に之を實行せんとするかと迫り「忍耐は美德なるも、忽ち或は罪惡となるべし」と當局の躊躇風あるを難せり、更に某新聞の曰く、昔ヂスレリーは何等特殊の政策を有せず、獨り英帝國民の崇嚴なる本能に依頼すと言へり、ロイド・ジョージ氏の民衆的本能に頼ると言へるもの、亦ヂスレリーの失敗を來すなきを得るかと炭坑夫組合ストライキ問題や愛蘭問題や、英國首相も多忙なりと言はざるべからず。(一九二〇、一〇、五)

## (補)

予は愛蘭問題の論議に關して、以上説述したる後、端なく今朝の新聞に依りて、英國前首相アスキイス氏の同問題に對する意見の開陳を知れり、氏の所見は本日「タイムス」紙の載する所にして、予は其の全文を卒讀して、氏が愛蘭問題に對する因縁に顧み、容易に 그레이子の提議に賛成する能はざるを諒とせずんばあらず、氏を以て見

れば、愛蘭に向つて外交、軍事以外、一切を舉げて其の自治に委すべしと云ふが如き寧ろ無意味なるを免かれず、愛蘭人民中シンフエン黨の如き外交の獨立を望むものあらんも、其の多くは未だ之を望まず、却て或は對外關係に於て、英帝國と密接の地位を保つべく希望する理由あり、陸軍に就ては凡そ英帝國の如何なる自治領に在ても、未だ全然分立せるものなく、且海軍の如き經費莫大なるものを、自家獨立の者と爲すが如きは、勿論愛蘭人民の強ひて求むる所にあらず、即ち 그레이子の所謂外交、軍事除外の條件は畢竟無意味とするが如く、而も愛蘭に向つて財政の獨立を許容するは、之を妨げずと做すもの、是れアスキイス氏の所見にして、氏は苟くも愛蘭に對する方策は、兎も角彼等をして其の所由を信せしむる底のものならざるべからず、又假に作爲的ならざる一部の除外を認むる場合ありとするも、兎も角全愛蘭人民の希望に副ふ底のものならざるべからず、是れ最大最要の條件と做すもの、如く、斯くて現在の状態に向つては一旦之が鎮靜を期するを以て、緊喫事と信ずるの風あり、ロイド・ジョ

ジョージ氏は来る八日アスキイス氏の所見に對して應ふる所あるべしと豫期せらる、尙ほ英國の新聞紙中、米國共和派の大統領候補者たるハーディング氏が英帝國に好都合なる對愛蘭意見を有するに拘らず、民主派候補者コックス氏が却て愛蘭の獨立を可とするの意見を有するに對しては、往々深刻なる批評を浴びするものあり、此等の問題に關しては外國の誤解を避くるが爲めに、所謂プロバガンダの必要を認むと言へる者あるに至つて、彼等の心理また同情に値せずとせず。(同上)

## 聯立内閣の是非

### (一)

威斯ランヂッドノ市に於けるロイド・ジョージ氏の演説は、本年英國政治季の開幕として、豫て敵味方の視聽を惹ける跡あり、氏の機關紙として創刊せられたる一雜誌

は、演説に先だちて早く既に現存の主要政治問題に關する其の會見談を發表せる爲め世人はランヂッドノに於ける演説の綱領も亦略之を推する事を得たるも、ロイド・ジョージ氏の雄辯と其の機略とを知る者は、更に演説の興味に向つて、私かに期待するを止め能はず、殊に氏が聯立内閣の是非に對して大に辯ずる所あるべきを豫期せられたる一事は、現にアスキイス氏若しくは獨立自由黨の有志が、切りに聯立非難の聲を放ちつゝあるに對して、最も興味を唆れり、少くもロイド・ジョージ氏はアスキイス氏の愛蘭意見其他氏の政治意見に向つて、大痛捧を浴びすべく風説せられたる結果、之を序幕として、今季の政治戦は開始せらるべしと豫想せられたり。

### (二)

蓋し今季の政治問題は、之を内にして聯立内閣問題、愛蘭問題、除隊兵就職問題、物價問題、住宅問題及び炭坑夫のストライキ問題あり、之々外にして對露問題、メソポタミア問題、印度問題あり、或は又對外爲替問題ありと做すを得べく、更にロイド

ジョージ氏としては對自由黨労働黨問題ありとも解すべき理由あり、就中聯立内閣即ち保守、自由兩派の戦時に於ける聯立状態を維持するの問題は、ロイド・ジョージ氏及び其の内閣の死活に關する政治問題として、到底世間の批評を黙過すべきにあらずアスクイス氏は嘗て其の選挙區に於ける演説中、聯立内閣を評して、事悉く亂脈也、彼等の記録は立法無能の記念として残さるべきのみと言ひ、家屋法案は紙上の改善に止まり、新設の保健大臣、交通大臣は要するに無用の行政擴張にして、土地所得法の如きも結局骨抜と爲り了はれり、而して是れ實に聯立内閣成立後の事業也、彼等は又愛蘭に對して何事をも爲さずと酷評せり、アスクイス氏及び獨立自由黨を以て見ればロイド・ジョージ氏の對保守黨聯立は、「自由黨を毒すること、猶ほ戦争前、獨逸が英國を害せしが如き」趣なきを得ず、彼等はロイド・ジョージ氏の罪を數ふるに於て、固より其の事例に乏しと做さず(一)ロイド・ジョージ氏は自由黨を擧げて、自家に柔順なる徒黨化せしめんとせる者也(二)否、若し自由黨にして之を肯かずんば、却て之

を殺害せんとする者也、而して今や彼れは自由黨をして唯だ(三)不具無能の者たらしめんとす、若し夫れ聯立自由黨と稱する者の如きは、一個獨立の政黨にあらずして、ロイド・ジョージ氏の家の子郎黨のみ、ジョージ氏なくば聯立自由派なる者なき也、即ち徹頭徹尾個人的也、現に其の機關紙さへ「ロイド・ジョージ」自由派雜誌と命名せざるを得ざる始末也、是れ豈に眞の自由主義政黨なる者ならんや、眞の自由主義は實に唯だ選挙上の駆引を目的とはせず、彼等は確乎として抜くべからざる理想を有せり、自由と正義と平等と是れ也、此の點に於て自由黨は、保守黨乃至労働黨と全く其の所見を異にす、此等の兩派が社會の階級的殊別觀念を強うせしむべき理由あるに對して、獨り自由黨は人類及び社會の福利が、各個人天賦の權利尊重に在るを信ずれば也、之をロイド・ジョージ氏が獨立を以て「巧妙なる企畫」と心得、乃ち自由黨の所欲を全うする所以と解すると、固より雲泥の相違あり、自由黨を以て保守黨と相聯繫するが如きは、全然主義を沒了する者也、或は天下をして保守黨の天下たらしめ、延

いて社會の危険を誘發する者也、試みにアスクイス氏自身をして言はしむれば「所謂社會主義の究極する所も、要するに個人、公共乃至社會の自由にあること明か也、而して是れ亦自由黨の依て以て立つ所のもの也、斯の主義や實に十分の順應性と適用性とを有し、苟くも社會の進歩と向上とに必要なる、不朽にして且つ永久なる主義を齎らさずんばあらざる也」

## (三)

所謂聯立と言ひ、新政黨の組織と言ひ、調和、操縦と言ふが如きは、獨立自由黨の最も擯斥する所にして、彼等の或者は是れ唯だ大海に浮游する海鷗の鳴く音にも等し自由の主義は彼等が鳴くと鳴かざるとに關はらず、行くべき所に行くなりと言へり、聯立自由派即ちロイド・ジョージ氏一派に對する此の派の態度を最も露骨に表白せるものは、本年五月七日リーミングトンに於ける全國自由黨委員聯合會の決議也、彼等は當日(イ)戰爭終熄の今日、最早や聯立を要せざるの故を以て、ロイド・ジョージ氏

の聯立を否認し(ロ)聯立その事が主義を沒了するの故を以て、聯立を否認し(ハ)社會黨を相手取りて保守黨と聯合するは、階級的憎惡の念を昂ぶらしむるの懼れあるの故を以て、聯立を否認するの決議案を附議し、敢て投票に加はるを欲せざるものありしも、兎も角決議案は四票に對する約四百票の大多數を以て可決せられたり、而も斯の決議案が、同時にアスクイス氏の補缺選舉に於ける當選を歓迎するの辭句をも之を挿入し、實行委員に向つて前記聯立否認の決議に基く相當の運動を委任するの決議を附帶せしめたるは、最も注目すべく、此の時に於て既にロイド・ジョージ氏は其の聯立内閣に關する辯明を必要と爲せるものとす、況んやロイド・ジョージ氏が向後此等獨立自由黨と労働黨に對して如何の態度に出づるかは、今年英國政治季節の觀ものたるに於て、世間の興味を喰れるも亦、其の理由ありと言はざるべからず、斯て本月八日ランチッドノに於けるロイド・ジョージ氏の演説は、ウェールズ各地の自由黨員代表者約四千人を相手に湧くが如き喝采を浴びつゝ、演述せられたりと傳へらる、即ちロイド

ジョージ氏はアスクイス氏一派の聯立非難の攻撃に對し、若し聯立を不可とせば、其の備を作れるものアスクイス氏自身なる事を知らざるべからず、氏は現に一九一五年（戦争勃發の翌年）自ら英國の二大政黨即ち保守自由兩派の聯立内閣を組織して、其の總理と爲り、保守黨のボナー、ロー氏、バルフォア氏、カーゾン卿、エドワード、カーソン氏及びランズダウン卿等、保守黨の領袖を其の内閣に列せしめたり、而も聯立その者の先例を詮索するに於ては、是れより先き一八八六年議會に於ける保守自由兩派の聯盟形式を出現せる事實あり、一八九二年同じく議會に於て自由、國民兩派の聯盟あり、更に一九〇六年以來一九一四年に至る事實に見るも、自由黨の内閣は國民、労働兩派の聯盟援助に依つて起つてと做すを得べく、是れ即ち其の實質に於てはアスクイス氏の聯立内閣と全く同じと解せざるを得ず、而してアスクイス氏退隱後、ロイド、ジョージ氏の内閣に至つても、其の實質に何等の相違を生ぜずと做し、却て獨立自由黨の矛盾を責むる所あり。

## (四)

ロイド・ジョージ氏を以てすれば、戰時既に聯立内閣を必要と做せるもの、今にして早く之を無用視するが如きは、最も輕薄なる見解也、英國の地歩困難なるは今猶ほ昨の如し、「暴風雨到る、船員は悉く甲板の上に来らざるべからず……見よ水平線上にタイフーン有り、我等は尙ほ危険の域を脱せざる也、我が船救はるゝまで、何人も甲板を下る勿れ」と、是れ自ら「船橋」に立てるロイド・ジョージ氏の叫び聲也、露國其他現に難破せる船舶を眼前に見るに當つて、ロイド・ジョージ氏は凡ての人の手を借らざるを得ず、豈に獨り英國に於てのみ然りと言はんや、米國以外各國悉く然り、然らざるべからざる也、夫れ政治の要は、多數國民若しくは國民全體の安寧幸福の爲めに利不利如何を以て標準と爲す、而してアスクイス氏は一九一九年十二月中、其の演説に於て聯立内閣は、國家の急に處すべく組織せられたり、而も其の所謂危急は未だ休戦を以て終れりと爲さすと言へり、換言すれば眞の平和は未だし、之を以てロイ

ド・ジョージ氏は尙ほ聯立内閣の必要ありと言ひ、些末なる政黨傳説、感情に左右せられて、國家の大本を誤るべきにあらずと説き、對露問題、炭坑夫問題、愛蘭問題を列擧して、國家斯くの如く夫れ多忙を極むと力説せり、ロイド・ジョージ氏は聯立若しくは聯合なくして、到底穀物條例の設定彼れが如き者あるを得ず、自由貿易の確立彼れが如き者あるを得ず、更に選舉權の擴張に就て見るも、聯盟の力を借れる跡、歴々之れを指摘し得べく、普通選舉は保守黨總理の下に自由黨の援助に依つて實現せられ、婦人の參政も亦聯盟の力に依れりと解すべき事情ありと説き、人の或は聯立内閣の無能を責むる者あるに對して、彼等は我が英國の講和外交を誤れりと言ふ乎、抑も佛國の満足と否とを無視して、英國自から其の所欲を貫かんとせしならんには、平和は恐らく今日に至るも實現せず、實にヴェルサイユの講和は、佛國の満足し得べき最小限度の講和にして、苟くも佛國を無視せざる限り、彼れ以上の講和を求むべからず、英國をして彼の米國の如からしめよとならば、知らず平和は何日之を所期し得た

るか、舌鋒甚だ鋭きものあり、要するにロイド・ジョージ氏の所見を以てすれば、聯立内閣は英國の急を救ひ、兼ねて世界の急を救ふ所以の途のみ。

## (五)

然れども炭坑夫ストライキ問題乃至愛蘭問題が、果して戦時の延長として、「暴風雨尙ほ止まず」として、尙ほ聯立内閣を認容すべく、十分の理由たるべき乎否乎、ロイド・ジョージ氏反對の新聞又は必ずしも反對ならざるも、敢て氏を辯護せざる新聞に在つては、之をロイド・ジョージ氏の説明に見て、未だ十分なりとせず、ジョージ氏が偶々聯立内閣を組織して、一切の問題を無事平靜裡に處理し去らんとするの工夫は氏の爲めに洵に好都合たるを失はざるも、之が爲めに議會に於ける論議の精神を喪失せしめ、乃ち議會政治を萎微せしむる懼れなきにあらず、殊にロイド・ジョージ氏は聯立を以て、自由保守兩派協同の力を得る所以と做すも、一面また聯立内閣は、兩派の交互政治と解すべき事情あり、或問題に對しては自由黨側の主張を實行し、次ぎの

或問題に就ては保守黨の意見に準據し、時としては同一問題に對して、初めは保守黨の所見に従ひ、後には自由黨に依り、遂に一定確立の方針を發見し能はず、近時英國内閣の外交内治、往々斯くの如しと批難する者なきにあらず、若し夫れロイド・ジョージ氏が炭坑夫ストライキ問題に關して、スマイリー氏(炭坑夫組合會々頭)の態度を賞揚し、氏が坑夫に向つてストライキの不可を論せる事實に觸れつゝ、如何に勢力を有すればとて、英國多數國民の爲めに一部少數者の專制を現するが如きは、斷じて之を容さすと言へる一事に對しては、保守黨側の新聞、特に之を喝采し、社會主義者の機關紙は、聊か苦笑の氣味あるを免かれず、最後にロイド、ジョージ氏は愛蘭問題に關して、私かに自ら爲さんとする者あるを諷し、デヨン、ブライト氏畢生の力を盡せる愛蘭地主主義の廢棄が、遂に亦聯立の力を以て實現せられたるを述べて、聽衆の注意を喚起せり。(一九二〇、一〇、一一)

## 巨頭連の論争

(上)

ウエールズに於ける英國首相ロイド・ジョージ氏の演説に就ては、特に其の聯立内閣の辯護に關して通信する所ありたり、而も同じくウエールズに於けるロイド・ジョージ氏の愛蘭問題に關する演説は、其のシンフエン黨に對する所謂ブラツク、エンド、テンの復讐行爲に就て、政府當局の責任を明かにせんとはせず、却て或は其の行爲を辯護せん口吻を洩らしつゝ、同時に又政府の關知する所にあらずと倣すが如き態度を示せるが爲めに、一層反對派の攻撃を盛んならしめたる形跡あり、グレイ子及びセシル卿は、一種公開的連署の文面を以て、ロイド・ジョージ氏の此の點に關する明白なる答辯を促がし、アスタイス氏も亦ブラツク、エンド、テン對シンフエン黨の戰爭を

以て、實に英帝國の恥辱と説き、此の醜態に對して、固より政府當局の責任を無視すべからずと言へり、而もアスクイス氏の蘇格蘭に於ける演説はウエールズに於けるロイド・ジョージ氏の演説に對する自由黨首領の大演説として、英國一般社會の最も注視せる所にして、愛蘭問題に關し、同氏が曩にグレイ子の自治案を評して、軍事（陸海軍）外交を徐き、氏は悉く之を愛蘭の自治に委すべしと做すは、尙ほ未だ全からず若し愛蘭人民にして自個獨立の陸海軍を有せんとならば、更に之を許容するも可なりと言へるに對し、重ねて世間の非難に答ふべく豫期せられたる結果、最も重要な演説と解すべき理由あり、ロイド・ジョージ氏は大戦争當時の實例に鑑み、愛蘭に獨立の海軍を許容するが如きは、一朝有事の際、英帝國をして忽ち危険状態に陥るものなりと言ひ、財政の獨立に就ても、英帝國民が大戦争費の負債償却に汲々たる間に、獨り愛蘭人民の樂生活を許すが如きは、大なる矛盾と做し、却てグレイ氏の自治案にさへ反對の意向を示し、少くも愛蘭に於て、罪惡（謀反的暴行）の繼續する間、政府は斷じ

て之を抑壓せざるを得ず、彼の自治の事の如きは、而して後の事なりと做す。

(下)

同じく自由黨にして、同じく聯立内閣反對の地位に立てるアスクイス氏とグレイ子との意見の相違は、即ちロイド・ジョージ氏の最も乘じ易き弱點にして、反對派新聞中早く之を指摘せるものあり、アスクイス氏も亦聊か此の點を考慮せりと推すべき事情なきにあらず、即ち蘇格蘭に於ける氏の演説中、假令愛蘭に獨立の海軍を容すも、一旦緩急あらば、固より其の海軍は英本國海軍の指令に依つて行動せしむべく、且つ平時に在つても、愛蘭海軍士官は英帝國海軍士官を以て之に充て、對外關係に就ては此等士官は凡て本國の規程に準據せしむべく、英本國の海軍は戦時自由に愛蘭の港灣を利用するを得る事とせば、決して英帝國の危険を來すが如きことなかるべきを力説せり、此の説明はアスクイス氏自身に在つては、或は當初よりの所存と做すべきや否やを知らざるも、之を第三者より觀れば、流石に當初の所見を彌縫し、特にグレイ子



の所説に接近せんと努めたる跡を掩ふべからず、現に自由黨の新聞は、斯くて早やアスクイス氏とグレイ子との所見に大なる間隔を見ずと做せるも、抑もアスクイス氏が今更ら斯かる自治意見を發表するが如きは、自由黨其の者の變説改論にして、アスクイス氏の現在所見を批評する者は實にアスクイス氏の過去ならざるべからずと言へり、アスクイス氏がロイド、ジョージ氏の愛蘭問題に對する演説を以て、殆ど批評の價値なしと言ひ、内閣反對の諸新聞が、要するに何物をも語らざるものなりと言へると併せて、愛蘭論争の白熱化し、混戦亂闘化しつゝあるを知るべく、保守黨の新聞がロイド・ジョージ氏の「罪惡の繼續」する事實に對して、政府は先づ應急の手段を執らざるを得ずと言へるを捉へて、切りに其の壓服論を高唱しつゝある事實も亦、興味ある觀物たるを失はず、而も勞働黨の領袖ヘンダーソン氏の所見が、アスクイス氏、グレイ子等の所見に比して、却て甚だ保守的なりとし、社會主義の記者をして、其の卑怯を非難せしめたるは、寧ろ笑止千萬也。(二九二〇、一〇、一八)

## 非猶太人論議

議會政治の母國とも稱すべき英國の首都に於て、群衆官衙に押寄せ、警官之を制せんとして、彼我少からの負傷者を生ずるが如きは、愈以て世界も物騒と言はざるを得ず、最近宗教家の會合席上に於て、一般社會の——若しくは寧ろ民衆の倚信を失したるもの、獨り宗教のみに止まらず、議會政治、政黨、教育悉く然らざるはなしと喝破せる牧師あり、幾日を経ずして去る十八日現に英國の除隊兵士が、其の失職救濟を訴へんが爲めに、示威行列を起し、遂に内閣官邸の附近に至つて血を見たるが如きは、彼の一牧師の爲めに敢て其の言を立證するものとして、高價なる狼籍振りと做さざるべからず。

x x

x x

x x

除隊兵の失業問題に就ては、曩に既に通信する所ありたり、彼等の運動は少くとも従來の形跡に徴して、甚だ穩健なりと認むべき事情あるのみならず、之を事實上の困窮に見るも、固より放置すべからざる理由あるを以て、總じて世間の同情を惹けるもの、如く、現に政府當局に在つても之が救済に腐心する所あり、折から住宅不足の聲あるに乘じ、建築會社又は建築業者を督勵して、盛んに其の工を起さしめ、失業除隊兵を此の方面に使用せんと目論見つゝある事實あり、多數の失業除隊兵は、特殊の工業又は技術に堪能ならずとすべき事情あるを以て、其の就職を全うせしむること、困難なりと解せられつゝあるも、若し政府の目論見にして、多少の實行を見れば、勿論應急の一方便たるを失はずと思はる。

××

××

××

而も失業除隊兵の數は、今現に日を逐うて増加し、一般勞働者の失業と併せて、實に英國の一大社會問題たり、當局は夙に失業對案を按じて之が救済に努めつゝあるも

洵にロイド・ジョージ氏の言へるが如く、失業除隊兵が一旦不足家屋の建築工事に使用せらるゝ事あるも、既に其の工事の終了せる後——例へば十年後の處置を如何せんとするか、更に之を政府當局に迫るが如きは、聊か主我的なりと做さざるを得ず、即ち除隊兵をして建築工事に使用するを以て、彼等の失業問題全く解決せられたりとすべからざるは勿論なるも、兎も角之を應急の一方策と爲すに就ては、當局以外に於ても、同意を表する者ありと推せらる。

××

××

××

然れども除隊兵が、當局に向つて院外の示威運動を試み、之が爲めに遂に血を見たる一事は、従來穩健なる運動として社會の同情を惹ける彼等に取つて、必ずしも有利の結果とは做すべからず、唯だ所謂亂暴狼藉者は、示威運動を行へる除隊兵士等にあらざし、却て此の機を利用せる他の一團若しくは一族なりと風評せらるゝに至つて事態は漸く興味ある趣向を齎すべく解釋せらる、所謂興味ある趣向とは何ぞや、予は

此の通信に於て之を説明せんと欲す。

七〇

英國最近の評論界が過激派鎮壓に關して、頗る神経過敏(?)なるは、何人も容易に之を看取し得る所にして、例へばデーリー、ヘラルド對露國過激派の問題又は愛蘭シンフエン黨對過激派問題に就き、彼等が飽まで過激派一掃の必要を説き、遮二無二其の罪跡を暴露せん氣勢あるは、注目すべき事實と做すべく、更に過激派の由來を究めて、到頭猶太族の罪惡を發く者二三に止まらず、予は此に此の非猶太族論の果して首肯すべき者なるや否やを究めんとはせず、而も試みに英國に於ける非猶太人論の一部を紹介するも亦、興味ある事と思はる、實に彼等は議會以外に於ける民衆運動即ち所謂院外運動の真相を究むるに就てさへ、尙且つ其の非猶太族の見解を忘れず、除隊兵の示威運動を利用せるもの亦、彼の猶太人なりと言ふ者あるに至る。

××

××

××

彼等の説明に依れば(一)鬭争の重心は必ずや之を院外に置かざるべからず(二)又院内の運動は必ず院外運動と接觸を保たざるべからず(三)同志の代表者をして各種機關(團體組合等)の裡に潜在せしめざるべからず、而して(四)右代表者は必ず中央本部の委員と連絡を保たざるべからず(五)彼等は且つ斷じて議會の風紀乃至習慣の爲めに軟化せざらんを要す——と、是れ猶太族過激派が、在英の同志に與へたる運動方針の綱領也、特に其の鬭争の重心を院外即ち街頭に置くべしと言へる一段は、英國の評論家が最も張膽明目して論議しつゝある所にして、各種のストライキや革命や、要するに此の方針に基くものなりと解せらる。

××

××

××

彼等は斯くて露國過激派と猶太人との關係を討究するに於て、甚だ綿密を極め、露國現在の過激派政府が表面猶太人の政府にあらざるは勿論なるも、一のトロツキーありて、猶太人を代表し、所謂委員會の背後に少からぬ猶太人あるは、掩ふべからざる

七一

事實と爲す、蓋し過激派と國際社會主義者若しくはマルクス、バクーニン、ラサール等の社會主義乃至各其の歴史的人物の主張と、如何の歴史的關係を有するかを説明せんば、甚だ容易ならず、而も英國評論家の或者は、マルクスは猶太人也、ラサールも亦猶太人也、彼等は意識的に或は無意識的に猶太人の傳統的感情と其の基督教國に對する復讐主義を享有せりと言ひ、就中マルクスが一八七〇年ゼネヴァに開かれたる社會主義者の國際會議に送れる一書は、英國評論家の到底忘れ能はざる文書の一とす。

× ×

× ×

× ×

マルクスは國際會議に送つて曰く、英國は眞に社會的革命を行ひ得べき唯一の國也唯だ英人は此の革命を爲し能はず、外人乃ち彼等の爲めに之を成さざるべからず、而して革命最切の目標は愛蘭に在り、然り彼等は將に其事業を始めんとする也と、現に愛蘭の状態彼れが如き事情の下に在りて、マルクスの此の書を見れば、英國評論家ならずと雖も、流石に戰慄せざるを得ず、即ち猶太族の方策は先づ産業を破壊して各社會

の失業状態を齎らし、窮乏を齎らし、不満を生せしめ、而して終に現存の各社會制度を破壊し了はるに在り、マルクスが直に此の方策を遵奉せりと言ふが如きは、餘りに彼れの哲學を無視し、又其の人格を無視せるものならんも、英國評論家中には其の勇猛心を揮つて、兩者の關係を研究せるものなきにあらず。

× ×

× ×

× ×

更に猶太人と英國との關係に就き、英國評論家は意外の新聞を傳へて之を説明するに努め、ヅエルサイユの講和會議中、猶太人の覆面代表者は頻に其の權謀を弄して、波蘭にダンチヒを與へざらん事に努め、同時に波蘭在住の猶太人に對する特權の賦與に努力し、此の點に於て英國と利害の衝突を來せりと言ひ、英國に取つては自由にして、強大なる波蘭の成立を歓迎すべき理由あるに拘らず、猶太人は自ら其の理想を現すべき障害として、波蘭の強大なるを好まず、乃ち勢ひ英國と猶太人との利害衝突を生じ、猶太人は休戦と共に早くもグラスゴー及びベルファストに於て、其の過激的

運動を開始せんと企圖したる事實あり、英國在住の猶太人或は世界各國の猶太人が、宗教上の結合以外、果して政治的目的を有する團結なるや否やに就ては、猶太人の或者に於て強く之を咎め、斷じて政治的團結の目的なしと言へるも、英國評論家中には却て其の反證を擧げつゝある者なきにあらず。

××

××

××

若し夫れ猶太人にして假りに政治的目的を有し、各國各地に潜伏しつゝある彼等同族が、只管此の目的の爲めに動きつゝありとせば、彼等の目的が果して那邊に在る乎是れ亦一個の問題たらざるべからず、而も英國の評論家中には易々之を指點して、猶太人の目的は彼等自ら主人公たり、少くも他の民族に對して優勝の地位を獲るが如き世界を現出するに在り、彼等は自家獨特の法規に依りて世界を支配せん野心に就て、最も熱切なりと説けり、而して同時に又英國の評論家は、此等猶太人の運動表徴として蛇の形體を使用しつゝあるは、即ち全歐洲及び全歐洲人を通じて世界各國の軍事的

經濟的各種の勢力を悉く猶太人の支配下に在らしむべく、有らゆる運動の聯合抱和を示すものなりと解説せり。

××

××

××

予は議院外の民衆運動及び過激派に關して、別に英國一部の評論家以外に研究する所あらんと欲す、即ち以上説述せる英國評論家の所説に對して、直に無條件の同意を表せんとはせざるも、予の尙は東京に在るとき、某官邊に於て猶太人の運動に關する秘密文書を獲得せる者あるを知れるが故に、試みに英國側の非猶太人論を紹介せるのみ、唯だ我が民衆の院外運動に就ては、固より容易に過激派乃至猶太人の乗すべき理由あるを見ざる也。(一九二〇、一〇、二二)

## 炭坑夫同盟罷業

## (一)

英國議會は開會早々炭坑夫ストライキ問題の爲めに、其の重心を引付けられつゝ、あの觀なきにあらず、即ち愛蘭問題の如きも、流石にストライキ問題の人氣(?)に及ばずと傲すを真相とすべし、除隊兵失業問題乃至非常法案の如き、固より議會の大問題たるの失はざるも、到底ストライキ問題に及ぶべからず、而もストライキの問題が議會に於て如何とも決する能はず、一旦交渉斷絶せる政府當局對坑夫委員の所謂「懇談會」に於て、辛く其の解決を見たるは、近頃厄介至極と言はざるべからず。

## (二)

坑夫のストライキに至れる事情に就ては、予之を通信する所ありたり、實に英國政

府當局は勿論、一般社會の豫期に反して、全英炭坑夫のストライキは十月十六日を以て一齊に開始せられ、當局及び英國國民をして、啞然たらしめたるの風なきにあらず、乃ち坑夫組合委員の如きも、當局の提案(前報)に對しては、各地の坑夫、多く反對する事なかるべきを豫想し、組合會長スマイリー氏は特に其の組合員に向つて、當局の提案を容認して、更に他日の根本的解決を待つべく勸説せるに拘らず、各地坑夫一般投票の結果は一六一、四二八票に對する六三五、〇九八票の大多數を以て、當局の提案を否決し、一日二志の即時増給を見ざる限り、一切の提案を否認するの意向を示せり、當局又は第三者の觀測を以てすれば、一般投票の實質は、尙ほ坑夫の間に於ける當局提案の不徹底を表明し、殆んど投票の目的を解せずして、其の權利を行使せるものありと傳へらるゝも、兎も角當局の提案——寧ろ或はロイド・ジョージ氏の提案が、大多數を以て排斥せられたるは、疑ふべからざる事實なりとす。

## (三)

斯くてロイド・ジョージ氏も亦、之が對抗策を講せざるを得ず、即ち氏は十六日直に一般英國民に向つて檄を飛ばし「當局は百方斯の不幸を回避せんと努め、現に當局の提案は、坑夫組合委員等の賛成を経たるに拘らず、坑夫等は却て之を拒絶し、出炭高の増加を拒絶し、今や其の勢力に訴へて遮二無二當初の目的を達成せんとす、國民は宜しく其の全力を舉げて、此の打撃に抵抗せざるべからず」と爲し、非常時に處する國民の覺悟を誨へ、坑山、運輸、食料各當局は亦夫々ストライキに對する臨機の處置を執る所あり、越えて十九日議會の召集と共に、形勢は更に新なる開展を見るべく豫期せられたり、而も當局及び一部政客間に在つても、ストライキの損害、未だ甚だしからざるに先だちて、何等かの解決を豫想する者多く、勞働派議員クラインス氏の如きも一週間以内に平和の解決を見るべきを豫言し、鐵道従業員組合會長トーマス氏は、極力同組合員の輕舉盲動を戒めて、三角同盟（坑夫組合、鐵道従業員組合、運輸業者組合の聯盟）あるの故を以て、誤りて坑夫の態度に雷同するなからん事を説くこ

と熱切なりき。

(四)

此の間、自ら亦種々の解決案を擬する者多く、ノースクリツフ卿の新聞デーリー、メール紙は、當局對炭坑夫組合の交渉に、尙ほ多少の餘地あり、例へば坑夫側の要求に係る一日二志の増給は、即時に之を許容し、三個月乃至六個月期限内に於て、當局の提示せる所謂標準出炭高の成績に達せざる場合は、増給を引去る事とせば、坑夫側と雖も恐らく異議なかるべく、一般國民も亦、ストライキの不幸を免がれ得べしと言ひ、クラインス氏は先づ一日一志の増給を許し、他の一志に就ては、之を獨立裁判の決定に俟つ事とすべしと説き、其他種々の私見あり、議會に於ては當局は速かに此のストライキ問題を解決するを要すと做し、炭坑勞働者にして議會有數の雄辯家と稱せらるゝブレース氏よりの新提案あり、要は當局をして今より十二月三十一日までを期限として、假りに一日二志の増給を許容せしめ、其の間に炭坑主並に坑夫側委員聯合

會を組織し、依て以て坑主、坑夫及び國家の利得分配案を決定せしめ、之を一九二一年標準率と爲すに在り、ロイド、ジョージ氏も亦固より早くストライキ問題を解決せん意思あるを告げ、乃ち炭坑夫組合委員にして、苟くも平和解決の爲めに會見を求めむとならば、何時たりとも之を拒まざる旨を表明せり。

## (五)

而も此の問題に對する最も重要にして、最も危険なる形勢は、鐵道従業員組合の態度也、彼等は勿論其の組合長トーマス氏の穩和なる意見(前記)を拒否せざるも、一面また同盟會員として、炭坑夫組合の主張と決心とに向つて同情なき能はず、仍つて先づ坑夫組合委員に對して、事件の經過及び今後に處する彼等の決心を問ふべく會見を求むるに決し、且つ當局にして坑夫組合員の所要を容れざるに於ては、鐵道従業員も亦結局ストライキを決行すべき氣勢を示すに至れり、是れ英國一般社會に取つては、由々しき大事件と做すべく、眞に危機迫れりと言はざるべからず、唯だ政府當局

は議會の意向に鑑み、再び坑夫側との「談話」若しくは「懇談會」を開くに決定せる爲め、辛く鐵道従業員のストライキを抑止し、トーマス氏また熱心に彼等の氣勢緩和に努めたる結果、兎も角も坑夫側との調和有望と爲れるは、英國一般社會の幸福と做さざるべからず、然れども是れ尙ほ調和の道程にして、未だ調和その者の實在にはあらず、實にロイド・ジョージ氏がスマイリー氏以下坑夫組合委員との懇話に依りて、其の結果を獲たるは、其の後更に一週間を経過せる後の事なりとす。

## (六)

況んや兩者の懇談は廿七日に至りて、再び形勢の悪化を傳へられ、坑夫側は新たに其の要求條件を加へて、折角調和成らんとするの形勢を紊れりと風評する者あり、ノースumberland侯をして言はしむれば「坑夫の目的は、別に是れ有り」當局如何に英國民の爲めに平和を望むに切なるも、坑夫等は他に一個の求むる所あるが如く論難する者あるに至れり、而も事既に此に至りて「懇談會」を無意味に終はらしめんは、



決してロイド・ジョージ氏の志にあらず、又或は氏の名譽にあらず、乃ち氏は閣僚との熟議を遂げたる後、廿八日遮二無二一個の解決案を決定し、坑夫側委員は復又之を一般投票に訴ふる事と爲せり、抑も解決案の内容は如何、政府が當日議會に報告せる所に依れば、即ち大要下の如し、曰く(一)坑夫及び炭坑主は、何れも英國並に英國民の繁榮の爲めに、協同して出炭高の増加に努むべく、此の目的の爲めに中央及び地方委員を設定すべし(二)此等の制度は遅くも一九二一年三月三十一日迄に、政府に於て之を立案決定すべきも、尙ほ其の以前に於ける假方法として、十八歳以上の坑夫に對しては一日二志を、十六歳以上十七歳の坑夫に對しては同じく一志以上を、十六歳以下の者に向つては九片宛を即時増給すべし。

## (七)

當局及び坑夫側委員は、臨時假方法即ち即時増給に關しても、固より巨細なる計算を試み、一九二〇年十二月十八日を以て終はるべき五週間の出炭高を準標とし、一九

二一年一月三日以降四週間の成績を考査し、以下各四週間を以て一期限と爲し、第二期の坑夫増給額は、第一期の出炭成績即ち同期間の利得高に依つて之を定め、第三期の増給高は第二期の成績に依つて之を計算する事とし、増給率を出炭成績に依りて割出す事と爲せるは、政府當局或は寧ろロイド・ジョージ氏當初の主張を貫徹せる所以なるも、兎も角先づ一日二志の増給を許可し、其の以上の割増を出炭成績に依る事と爲せるは、坑夫側に向つて、多少の讓歩を餘儀なくせられたるものと見るを妥當とす現に坑夫組合會長スマイリー氏並に同會書記ホツヂス氏は、交渉成立の日、早くも労働組合聯合會に於て「勝利」を祝賀せられたる事實あり。

## (八)

予は前に記載せる坑夫増給方法が果して根本的勞銀解決策なるや否やを明言する能はず、又政府の立案すべき地方及び中央委員會の制度、成績如何を豫斷する能はず、然れども英國の知名政治家中、此の頃産業新制度の一形式として、資本主對労働者の

「共同組合制」を議する者多く、アスクイス氏の産業「新組織案」の如き、要するに亦其主旨此に在るを知らば、ロイド・ジョージ氏が坑夫側の要求に鑑みて、前記の解決方針を執れるも、或は止むを得ざるべしと思はる、即ち各地坑夫の一般投票が果して如何の意志を表し來るかは、未だ知るべからざる問題なるも、大體また此の案を容認すべき事情あり、果して然らば石炭を以て最重要の寶物と爲せる英國及び英國民の爲めに、最も祝すべき解決と言はざるを得ず、予は固より更に一般投票の結果を通信すべき義務を有す、而も特に此の場合、商務大臣ロバート、ホーン氏がストライキ問題に關する初期の折衝に於て、其の手腕を認識せられ、坑夫組合書記としてフランク・ホツヂス氏が世間の注目を惹ける事實を附記せんと欲す。(一九二〇、一〇・二九)

附記 前記四週間毎の成績に依る増給高は、各四百萬噸(一年出炭割額)を増加する毎に、坑夫一人に付一日六片の増額を爲すものとす。

## 非常法案の可決

(上)

英國議會に於ける愛蘭問題、特に其のシンフエン黨に對する鳶色黨徒の復讐戰に關する作戦は、聊か其の人を得ざりし氣味なきにあらず、即ち労働黨領袖ヘンダーソン氏は一個の決議案を提出して、所謂復讐戰の責任所在を明かならしむべく裁判開始の必要を説けるも、決議案は却て七九票對三四六票の多數を以て之を否決せられ、次で除隊兵問題に就ても、一般失業者問題と共に種々の論議を試みられたる以外、是れ亦何等の結果を見ず、政府は冬季失業者の増加を慮かりて相當解決方針を樹つべしと云ふ以外、何人も具體的の方策を有せず、勢ひ議會を賑かならしむべき何等の波瀾を惹起さず、唯だ政府の提出に係れる非常法案(若しくは非常時法案)は折柄炭坑夫の

トライキを控へ、且つ一般労働社會の悪化に顧みて、少からの注目を惹けりと推すべき事情あり、當局は特に此の法案が、今次の炭坑夫ストライキに關係せずと做し、又法案中愛蘭に對しては之を適用せざる旨を明記せるも、之を兩者の經驗に徴して、一層世間の注意を喚起せる理由あるは、否むべからず。

(中)

非常法案は非常時に處する應急措置案也、詳しく言へば、或種の人々又は團體等にして食糧、水、燃料、燈火の供給分配を妨害し、或は社會若しくは社會の重要な部分に對して、生活上必須品の供給を阻止するが如き事ある場合、政府は「非常時」を布告し、之に處するの手段を執るの法案也、即ち政府は此の場合、必要手段として或は或種の動員令を下す事を得べく、且つ時としては公安維持の必要として、豫め之に備ふべく其の手段を執る事を得るの權利を獲んとする者也、勢ひ其の主旨に對しては政府反對派と雖も、固より否認の理由を有せざるも、唯だ今の時に方つて果して斯く

の如き法案提出の必要ある乎、若しくは斯かる法案の提出は、却て一部労働者に對して猜疑の念を強うせしむる事なき乎、反對派に於ては寧ろ此點を疑問と爲せるに過ぎず、而も労働黨側に於ては流石に此の案を快よからずとするの氣勢あり、ヘンダーソン氏、始め同派の議員が種々の質問を試みたるは、必ずしも不自然とは言ふべからず。

(下)

即ち一労働議員の如きは、政府にして愈々此の法案を施行する場合、例へば郵便配達夫の如き、當然其の動員令に依りて「非常時」の義務に服すべく餘儀なくせらる、事なき乎、此の案あるが爲めに、或種の労働組合に於てストライキを行ふ場合、組合員の之に参加する事を妨ぐるの懼れなき乎、食糧、水、燃料、燈火以外、所謂「其他」の文字を削除するの必要ありと做す等、要するに労働問題に對する打撃を慮かれる質問と解するを得べく、或は全然此の案の延期を要求せる者ありたるも、結局兩院とも大多數を以て之を可決せるは、一面英國の政治社會が労働運動の過激化を看取せる結

果と解するも不可ならず。(一九二〇、一〇、三〇)

### ゼネヴァ會議前程

#### (甲)

ゼネヴァ會議參列委員として日本より派遣せられたる目賀田男一行は、早く既にマ  
ルセイユに到着せる者の如く、予は昨夕刊新聞に依りて、其の消息を知り得たり、且  
つ目賀田男は往訪の某通信記者に向つて、今次の會議が一層聯合國間の關係を緊密な  
らしむべく期待する旨を語れるもの、如く、是れ所謂「委員」の外交辭令たるのみな  
らず、實際に於て亦然るべしと信せらるゝも、而も今次の會議は少くも英佛國間の意  
見に就て、今一步の調和を見ざる限り、相當の難問題に逢着すべき理由ありと想はる。

#### (乙)

最近佛國の新聞は、英國殊にロイド・ジョージ氏の講和條約に對する態度に快から  
ず、切りに其の軟弱なるを責て、折角英佛の親和を破らんとする者なりと説く者あり  
英國側に在りても、ロイド・ジョージ氏が濫りに講和條約規程の條項を反古にして、  
其の獨逸に對する權利を放棄し、延いて講和條約の重味を減殺するが如きは、策の得  
たる者にあらずと做し、特に又之が爲めに佛國側の不安と不満とを來すを批難する者  
少からず、所謂ロイド・ジョージ氏の所存は、獨逸に於て講和條約所定の賠償を實行し  
能はざる場合、英國は其の國內に於ける獨逸人の個人財産を沒收するの權利を有する  
に拘はらず、却て自ら之を放棄せんと云ふに在り、而かも斯くの如きは佛國の最も不  
滿を感ずる所にして、凡そ獨逸の賠償不可能を豫想するに、斷じて其の實際を無視す  
る者と解するが如く爾り。

#### (丙)

佛國に取つては、獨逸の回復は最も彼等の懸念する所にして、賠償金額の如きも決

して輕少なるを容さず、殊に獨逸にして賠償金額を負擔し得ずとならば、寧ろ進んで  
 ルール地方を占有するを至當と做すに在りて、ロイド・ジョージ氏若しくは英國側一  
 部政治家が、動もすれば獨逸の疲弊を説き、賠償能力の甚だ大ならざるべきを豫想せ  
 るに對して、全然其所見を異にせる氣勢あり、勢ひ獨逸個人の財産沒收權を豫め放  
 棄するの宣告を與へて、早く講和條約の輕重を問はしむるが如きは、佛國側の忌み且  
 つ恐るゝ所の問題たらざるを得ず、殊に佛國側に於ける此の感情は、ロイド・ジョー  
 ジ氏が國際聯盟に關して、將來獨逸、埃國等を包容するに至つて、始めて完全なるべ  
 き旨公言せる事實に依りて、一層其の度を昂ふらしめたりと推すべき事情あり。

(丁)

英國に於ては、同時に又ロイド・ジョージ氏と其の所見を同うする者あり、獨逸に  
 對して到底不可能と見らるべき程度の賠償金額を課せんとするが如きは、全く無意味  
 の殘酷手段にして、要は聯合各國自ら其の常識に訴へざるべからずと做し、佛國及び

其の爲政者が、講和條約に依りて、果して新なる世界を作出せんとする乎、或は單だ  
 舊世界を再現せしめんとする乎は、彼等が先づ考慮すべき問題にして、彼等假りに若  
 し舊世界の再建を目論むとならば、是れ實に歐洲新文明の光來を妨害する所存に過ぎ  
 ず、彼の所謂列國の均衡と云ふが如き思想を以て、尙ほ今後の國際關係に處せんとす  
 る事あらば、佛國自家の爲めに甚だ其の古風なるを惜まざるべからずと説けり。

(戊)

獨逸の回復力如何は、尙ほ問題たるべし、然れども佛國が切りに其の復讐を恐れ、  
 其の再び佛國を壓迫する事あるを恐れ、且つ自家の回復に急なる結果、成るべく多大  
 の賠償金を得ると共に、飽まで聯合國の結合を強硬にせんとするに切なるが爲めに、  
 動もすれば聯合國殊に英國側の親獨(?)的氣勢を猜せんとするは、寧ろ同情すべき者  
 なきにあらず、兎も角もゼネヴァ會議の進行は、英佛間に於ける此の感情乃至意見の  
 調和を必要なる前提とすべき乎。(一九二〇・一〇・三一)

## 英政界時事五題

## 一、坑夫罷業熄む

予が僅かに十餘日間の通信を怠れる間に、英國の政界は彌々益々多事の感なき能はず、即ち炭坑夫の罷業は、兎にも角にも前便の條件を以て、終熄するを得たるも、各地坑夫の斯の問題に對する一般投票は、坑夫組合領袖乃至三角同盟の領袖連が、頻りに政府側提案に賛成して、一旦罷業を終結せしむべく勸告せるに拘らず、總投票數六十八萬四千五百四十九票に對して、反對票數三十四萬六千五百〇四票に達し、事實に於て政府側の提案若しくは寧ろ政府對坑夫組合領袖の折衝を経たる提案を否認せるものと做すを妨げず、而もストライキの續行は、總組合員三分の二以上の賛成を得ざる限り、不可能の規定なるを以て、ストライキその者は十一月六日以降八日まで遂に

其の終熄を見たるも、更に炭坑主及び坑夫組合委員の間に於ける所謂根本的解決の折衝は、是れより幾たびか其の難關に逢着すべき事情あり、況や豫て坑夫組合委員の間に唱說せられつゝ、ある炭坑國有の日、果して何れの時に到るべきかは、尙ほ遑々遠の感なくんばあらず。

## 二、英佛異見調停

ゼネヴァ會議に對する英佛間の異見に就ては、予之を前便に報ずる所あり、爾來佛國側の對英感情甚だ面白からざるものありしも、流石に兩國政治家の努力に依りて多少の緩和を見たるもの、如く、即ち獨逸の賠償額に關しては、各聯合國賠償委員の選定に係る専門家を先づブラツセルに召集して、獨逸側代表者の説明を聴取せしめ、賠償委員は右専門家の調査報告に基きて、更に獨逸の賠償能力に就き、ゼネヴァに聯合國財政委員の會議を開き、次で又巴里に賠償委員總會を開きて、大體獨逸の賠償總額

を決定し、最後に主なる聯合國の首相會議を開催し、斯くて愈賠償金額を確定せんとするもの、英佛國間異見の調停案にして、尙ほ巨細の點に關しては、全く兩國の一致を見るに至らざるも、兎も角略調和の望みを獲たりと傳へらる、而も獨逸をして國際聯盟に加入せしむべき乎否乎の問題に就ては、兩國孰れも之を否認し、唯だ埃國の加盟に對して考慮せられんとする形勢あり、此の間ロイド・ジョージ氏が獨逸をして國際聯盟に加入せしめざる限り、聯盟は未だ完成せられたるものとは做すべからずと説き、同時に又獨逸の講和條約に對する最近の態度を嘉して、殊に其の軍備減縮の實を認容しつつあるに就ては、佛國側に在つて、或は苦笑を禁じ得ざるやも知るべからず現に倫敦の新聞にして、ロイド・ジョージ氏の獨逸に對する深切を冷評せる者あるに見るも、佛國民の感情を推し難からず。

### 三、埃及問題

埃及問題も亦最近漸く其の熱度を昂ぶらせ來れる者の一たるを失はず、政府の機關紙は埃及問題決して驚くに足らず、ミルナー卿對埃及代表委員の所謂獨立問題に對する交渉は、極めて圓滑に進行しつつありと做せるも、他の新聞紙中には前途の甚だ暗愴たるを報ずる者多く、埃及に於ては早くも十一月十三日を期して、埃及獨立の日と做し、苟くも現在保護國制度の除去せられざる限り、獨立欲求の精神は之を掩蔽し難かるべきを宣言せんと風評せらる、英國政府が最近特に此の問題の爲めに緊急會議を開けるに見るも、蓋し形勢の切迫せるを解し得べく、倫敦の政界に在ては、ミルナー卿は今や保護國制度の廢止に賛成せしむべく當局者に説きつつあるも、カーゾン卿、チャーチル氏等は尙ほ同制度の持續を主張しつつありと風説せらる、乃ち社會黨新聞の如きは、更にチャーチル氏の態度を説明し、彼れを以て埃及を飛行船の根據地たらしめん計畫を有する者と做すに至る、而もミルナー卿の態度に對しては、埃及代表者も亦其の眞意を諒とせるもの、如く、當時聊か猜疑の念を有したるに似ず、廳下卿に

向つて、埃及國民主義運動の有力者が、決して非英國的ならざる事實を訴へ、且つ英國と埃及と將來と雖も、斷じて利害の衝突を來す者にあらざる所以を説けりと傳へらる、斯くて英國政治家、新聞紙中にも亦、英國にして蘇土運河を確保し、埃及の財政改革に對する監視を持續し、更に其の司法を監督して、將來の親善外交を保證し得んには、埃及國民の自決に委するも、決して惡からずと爲す者あるも、英國政府若しくは議會が、克く此の決心を爲し得るや否やは、尙ほ大なる問題と言はざるべからず。

#### 四、愛蘭案の通過

予は愛蘭問題に就て、既に屢々之を説述せり、正直に言へば、最近英國議會の問題は愛蘭問題以外、絶えて大なるものなしと言ふも不當にあらず、而も政府の自治案が下院の第三讀會を通過せるは十一月十一日の事にして、五十二票に對する百八十二票の多數を獲たり、獨立自由黨の機關紙は投票の内容を説明して曰く、當日棄權せるも

の殆んど五十名に近きに見るも、以て下院の同法案に深切ならざるを知るべく、要するに投票（反對及び賛成）の勢を執れるもの、總議員數の三分一のみと、更に保守黨側即ち現政府側の新聞に見るも、法案の内容に就ては、極めて冷淡なる態度を持し、労働黨議員の同法案に對する態度が、一面愛蘭に於ける投票を獲得せん野心に制肘せられ、他面に於ては則ち過激派に接近せん野心を有するが爲めに、結局半上落下の風あるが如く、ロイド・ジョージ氏の態度も亦、私かにエドワード・カーソン氏一派の意を迎へん底意あり、又保守黨の意に逆らふ能はざるが爲めに、同じく半上落下の態ありと做せり、等しく聯立自由黨と共に現政府を援助しつゝある保守黨新聞にして尙且つ彼れが如き冷評を下すに至つて、愛蘭法案が如何に保守黨側の不滿を買へるかを知るべく、況や獨立自由黨即ちアスタイス氏一派の新聞に至つては、ロイド・ジョージ氏を以て全然愛蘭問題の何たるかを知らざる者と做し、殆んど低能兒扱ひを敢てして憚らず、若し夫れ法案その者に對するロイド・ジョージ氏の自讃如何を知らんとせ



ば、氏自ら「英帝國を切裂くが如き如何なる者」をも承認する能はずと言ひ、斯の案に依つて、克く英帝國の潰裂を防ぎ得べきを斷言しつゝあるに徴して、其の一般を窺知すべく、豫て自治案に反對せるエドワード・カーソン氏が、同案の一大障害と見做されたるアルスター州に關して「今は早やアルスターも亦、此の案の爲めに強ひらるべき服従を認容すべく、最善を盡さん事を決心せり」と言へるは、兎も角も英國下院に於ける愛蘭自治案最後の餞別と謂ふを得べき乎。

### 五、現内閣の裏門

ロイド・ジョージ氏の内閣が、果してアスクイス氏一派の獨立自由黨側に於て吹聴せられつゝあるが如く、爾く裏面の暗闘あるか否かは、假りに之を別問題とするも、ロイド・ジョージ氏自ら吹聴する聯立内閣存立の意義、尙ほ消滅せずとする議論の裏には、流石に少からぬ苦慮あるを忘るべからず、例へば愛蘭問題に對する保守黨側新

聞の冷淡なる態度に見るも、動もすれば内閣内部の不調和を暴露せん惧れあるを解し得べく、最近又非投賣法案の問題に對して、内閣援助派即ち保守黨及び聯立自由黨の間に意見の衝突あり、保守黨側は同法案の提出を急がしめんと企てつゝあるに對して、聯立自由黨は寧ろ之を無用と爲し、兩々固執して下らず、政府は早くも問題の紛糾を恐れて、今期議會に對する右法案を差控ふるに決したりと傳へらるゝも、保守黨が其の大多數の議員を擁して、果して政府の此の決定を是認するや否やは、尙ほ大なる疑問と爲さざるを得ず、蓋し所謂非投賣法案は、原産國に於ける生産費以下の價格を以て、之を英國市場に賣出さんとする組織的の計畫を防止せんとする者にして、要するに英國産業の保護政策に外ならず、保守黨側の所論に依ればロイド・ジョージ氏は實に其の一九一八年の總選舉に於て、斯の政策を公約せる責任を有する者なるも、斯くの如きは自由黨の傳統的政策に反する方策にして、聯立自由黨と雖も固より之を承認し能はざるものとす、知らず、ロイド・ジョージ氏は兩派の意見に向つて、如何に其

の調和を試みんとする乎、彼れ必ずしも未だ太平樂の飽喫者にあらざる也。(一九二〇、一一、一四)

## 英國と國際聯盟

### (一)

英國政府の機關紙は、國際聯盟に對する英國政治家の態度を二様に殊別し、一は極めて冷淡にして、他は却て之を政府攻撃の材料に利用せんが爲めに、種々の觀測を下しつゝある徒輩なりと言へり、即ち機關紙自らはゼネヴァの會議が、着々として其の事業若しくは事務を進めつゝあるを説き、現在の状態に於て國際聯盟は尙ほ不完全なるを免がれざるも、而も米國の問題、獨逸國の問題を解決し得ば、其の完成を期するも亦難からずと傲せり、蓋し一部英國新聞の批評を以てすれば、國際聯盟は現に尙ほ

白人種の三分一を包含するに過ぎずして、少くも米國の加入と埃國匈國乃至露國、獨逸の参加を見るに至つて、完成せらるべき者なるも、獨逸の参加に就ては佛國側の強硬なる反對あり、英國側聯盟會議委員バーンス氏は會議席上に於て、速かに此等舊敵國の加盟を認むべきを論述して、多數の賛成を得たるも、獨逸の参加問題は同國自ら未だ参加を求むるの氣勢なきのみならず、佛國の態度に多少の緩和を見ざる限り、容易に決すべくもあらず、露國の加盟問題に至つては更に種々の難關あり、勢ひ獨り埃國の参加問題決せらるゝも、聯盟その者の所謂完成を期すること前途遼遠ならざるを得ず、即ち英國新聞紙中ゼネヴァ會議を以て贅澤なる道樂視するの風ある者に向つては、政府機關紙の戒告も亦無理ならずとすべき理由あるも、現在聯盟國が獨逸露國に對する問題に關して、今一步の決定的方針を樹てざる間、聯盟は甚だ不完全を極むるものと解せざるべからず。

### (二)

予は此の機に於て、露國に對する英國の態度を説明せざるべからず、即ち政府は最近寧ろ經濟問題の壓迫に餘儀なくせられて、對露通商の復活を決すべき旨、ロイド・ジョージ氏自ら之を會議に於て宣明せるも、政府が此の決定を爲すに至るまでには、相當の時日と曲折あるもの、如く、予が着英後通信せる過激派のデーリー、ヘラルド紙に對する補助問題の如きは、右通商問題の解決を遷延せしめる理由の一と做すを妨げず、當時の駐英露國代表者カメネフ氏が倫敦を立退くべく餘儀なくせられたる事情の裡にも亦、此の問題あり、カメネフ氏は是れより先き通商復活の希望を成就すべく種々の努力を試みたるや明か也、而も氏及び露國過激派が英國に向つて種々の喧傳運動を試みつゝある一事は、英國政府の最も嫌忌する所にして、過激派が此の運動を中止せざる限り、英國政府は斷じて過激派政府との通商を開くを欲せず、唯だ英國内地の經濟事情は、近時漸く世間有識者の注目する所と爲り、失業問題、物價騰貴問題等を併せて何等の救済を要するものあり、特に露國との通商開始を以て、其の有力なる

一手段と説く者あるに至つて、政府は更にカメネフ氏に代はれるクラシン氏との間に種々の折衝を試み(一)在露英國俘虜の放還(二)過激派の波斯乃至印度方面に對する宣傳中止(三)舊露國の國際負債承認等を條件とし、同時に又聯合國側の對露封鎖を解くことを認容して、兎も角も通商の復活を爲すに決せる者と解せらる。

## (III)

クラシン氏は此の條件を以て、固より露國過激派政府の方針を定むべく要請すべき順序と爲れるも、果して其の舊露國政府の負債承認が、過激派政府の同意を得るか、其の近東に對する運動が果して中止せらるゝか、此等の問題は容易に之を豫斷し難き事情あるのみならず、更に對英秘密運動の如きも今や最も注目すべき事實ありと做すべき理由あり、英國政府と雖も流石に安心を以て過激派との折衝を喜び能はざるべき事情あるべく、現に政府部内に在ては外相カーゾン卿並にチャーチル氏の通商復活反對あり、一時其の中止をさへ傳ふる者あるに至れり、而も前記英國内部の經濟事情は

近時政府の財政問題と共に、何等かの方策を必要とする理由あり、對露通商問題の解決が、此の間有力なる當面の急務と解せらるゝに於て、政府も到底此の問題を放置する能はず、ロイド・ジョージ氏はカーゾン卿チャーチル氏等を説いて、過激派の同意ある限り、通商を再開せんとする者と解せらる、即ち又此の問題は獨逸産業の復興が豫想外に急速なりと風説せられつゝあるに對して、某國側の刺戟を見たる結果とも做すべく、是れより先、英國労働黨を始め労働社會が一般に露國との通商復活を力説せるは顯著なる事實なりとす、知らず露國過激派政府克くクラシン氏の傳達を容れて、其の對英通商を復活し、自から又其の經濟的窮地を脱する乎、之を面白き觀ものとす。

## (四)

予は更らに此の機を利用して希臘に對する最近英國の輿論を紹介せんとす、是れ亦英國政界の一時事たるを失はざれば也、正直に言へば、英國政府は希臘前皇帝が、飼猿の爲めに搦たれて、不慮の死に致されて以來、皇位繼承問題或は何人を擧げて其の

皇位に就かしむべきかの問題に關して、餘りて冷淡なりし傾きなきを得ず、即ち希臘の政治殊に非聯合國政治家の皇位繼承問題に對する運動、甚だ盛んなりしに對し、英國は佛國と共に全然袖手傍觀の態度を執れる風あり、此の態度は聯合國側の政治家にして現に最近まで希臘首相たりしヴェネゼロス氏に在つて亦全く同様の憾みありしものゝ如く、氏は希臘の總選舉に向つて十分に自家の勝利を信じたりと解すべき理由あり、唯希臘前皇帝の父コンスタンチン陛下の一派は、私かに夙く其の勢力の挽回に努め、コンスタンチン陛下自ら皇位に復せん野心を包藏し、總選舉は實に百三十二の多數を以て陞下一派の勝利に歸するに至れり、而も此結果希臘内閣の更迭と爲り、ヴェネゼロス氏に更はれるラルリス氏の政府は小くも小亞細亞方面に備へられつゝある希臘十萬の軍隊を徹退せしむべき事情あるに於て、聯合國側の一大問題たらざる能はず況やコンスタンチン陛下は豫て前獨逸皇帝の妹を皇后とし、獨逸最負の故を以て、曩に大戰争中、聯合國側の爲めに國外に逐はれたる事實あり、今次の希臘總選舉に於て

前獨逸皇帝側より内面の運動ありたりとせんは、餘り猜疑に過ぐるも、兎も角もコンスタンチン陛下一派の勝利に就ては、英國及び佛國の新交渉を要し、聯合國の警告を必要とする理由あること勿論にして、今や佛國は既にコンスタンチン陛下の復位に反對すべく、早く非公式の宣明を爲しつゝありと傳へらる。(一九二〇、一一、二二)

## 財政經濟論議の沸騰

### (一)

英國最近の外交、殊に露國との通商問題が、國內經濟事情の壓迫に原因する所少からざる理由あるは、前便に之を説明せり、仍て予は所謂國內經濟乃至財政の事情に關し、其一端を説明して、前便を補遺する所なかるべからず、實に英國政府の財政問題は、自由黨首領アスクイス氏の指摘に俟つまでもなく、漸次不安の狀態に陥れる者と

做すべく、而も其の原因が政府の濫費に因るや否やは、假りに之を別個の問題とするも、現に英國政府が戦争又は殆ど戦争状態に處するが爲めに、其の軍隊を派遣し、若しくは駐屯せしめつゝある者(一)メソポタミヤ並に波斯を始めとして(二)コンスタンチノーブル(三)埃及及び(四)パレスタインあり、陸軍大臣の説明に依れば、此等の經費は(一)に對して年額(本年度見積)一千萬圓(二)に對して二百二十五萬圓(三)に對して九十萬圓(四)に對して九百萬圓を要すべく、更に希臘問題、アルメニヤ問題を算へ來らば、英國政府の負擔額は、彌が上に加重して止まる所を知らず、況んや國內に在つては愛蘭の形勢彼れが如く、政府部内の經費に就ても、容易に其の節減を容さず、ロイド・ジョージ氏は最近議會に於て、食糧大臣の廢止を言明せる事實あり、アスクイス氏の言を以てすれば、現に政府には無用の大臣ありて、益す其の經費を膨脹せしめ、無用の軍隊出動に依りて、對外濫費を甚だしからしむる傾きあり、而も少くもメソポタミヤ乃至波斯方面に向つては、新に外交上の轉換を期せざる限り、猝かに其の

軍隊を撤退せしめ能はざる理由あり。

## (一)

アスクイス氏の曰く、労働大臣及び保健大臣の事務は、寧ろ之を商務省又は地方局の所管に止むるを得策とすべく、戦争以前に於ける政府各省の役人数は二十七萬八千人に止まれるも、今や三十六萬八千人と爲り、一保健大臣にして尙且つ六人の日傭監督を有し、百二十二人の雜役夫を監督せしめ居れりと傳へらる、即ち各省の經費も亦従つて膨脹し、軍需大臣の管下に在て六億五千萬圓、管船大臣の管下に在て二億一千万圓、運輸大臣の下に在て一億五千萬圓、食糧大臣の下に在て一億二千五百萬圓の經費を要するに至れり、夫れ我等の敵、既に潰滅せられたるに、議會は却て海陸軍及び航空隊の爲めに更に五十六萬五千人を要求し、此等の經費二十億七千萬圓に上る、當局は宜しく速かに此の巨億の冗費を中止すべき也と、軍需大臣は同省政府委員をしてアスクイス氏の演説中、同省の經費に論及せる點に就き正誤を發表せしめ、同省の經費

一億九千萬圓にして其の収入は却て二十億圓に上り、結局十八億圓餘の純所得あり、休戦以來同省に於て拂下げられたる不用物の賣上高は、既に五十四億圓に上る旨を言明せるも、斯くの如きは勿論未だアスクイス氏の論據を覆へすに足らず、同氏が本年度豫算概算百十八億四千萬圓に對して、次年度の概算百二十八億二千萬圓に上るべき事情ありと言へる一事は、大體に於て之を承認せざるを得ず。

## (二)

而も此の經費膨脹、獨り英國民の納稅負擔を加重せしめず、之を諸物價の昂騰に考ふれば、英國民の經濟的境遇は、一層彼等をして苦情を甚だせしむべき理由あり、或方面の調査に依れば、戦争前に於ける生活費に對して、現在彼等の生活費は十七割六分の増進を示し、本年一月と現在とを比較するも、尙ほ五割一分の増進を示せる事實あり、勢ひ各方面に於ける労働者の紛議を免かれず、假りに最近のストライキ騒ぎのみを擧ぐるも、既報の炭坑夫ストライキを別として、保險業従事員のストライキ計畫

あり、鐵道従業員の不平あり、俳優其他劇場、寄席藝人の紛紜あり、造船労働者の不平あり、同時に失業者の數も亦著るしく増加し、去る九月一日の失業者數二十萬八百二十九人に對し、本月一日の現在數は早やくも四十三萬二百六十七人を數ふるに至れりと傳へらる。予は此の程屢々倫敦市中失業者の行進を見る毎に、其汚面穢服に向つて少からぬ同情を禁する能はず、乃ち政府は曩に既に建築業者と交渉して、除隊失業兵の爲めに其職を與ふるに努め、内地の各都市に向つても夫々各種の事業に従事せしむべく、少からぬ除隊兵を分配しつゝあるも、失業者は冬季に於て一層の増加を來すべく豫期せらるゝのみならず、各労働者の賃銀増加運動と併せて、益々英國産業の痛苦を來すべき理由あり、而も事業家、資本家側に在つても苛税の負擔に堪へずと做して、各々大資本の必要を説き、加ふるにクリスマスを控へて獨逸製玩具の輸入問題あり、是れまた當局の一頭痛たらざるを得ず。

## (四)

蓋し獨逸製玩具の輸入はクリスマスを控へて、英國當局及び當業者の最も驚愕せる所にして、彼等が張膽明目、獨逸の産業復活乃至投資如何を監視せるに拘らず、何時の間にかクリスマスを目當てに、獨逸製品は特種の商標を用ゆる事なくして、密かに倫敦市場に侵入し、先づ新聞記者の注意を惹起して、或は之に對する非賣同盟を高唱する者あり、某大新聞の如きは、苟くも獨逸製品を購はずと決心せる讀者あらば、之を紙上に發表すべく吹聴するに至れり、乃ち議會に於ても亦、此の問題に關して質問を發する者あり、商務大臣は獨逸製品の侵入を防止すべく、或法案の提出を計畫しつゝあるが如くなるも、到底應急の方策たる能はず、是れより先き染料問題に就ても、獨逸品の壓迫を傳へて政府の應急策を必要とせる者あり、如何に英國染料の生産費を低下して、獨逸品との競争に便すべきかは、今尙は英國産業上の大問題と爲すべく、彼等が動もすれば戦時に獲得せる世界の市場に對して、獨逸製品の侵入と其の優勝とを恐るゝこと、殆んど豫想以上に在りと言ふを妨げず、政府が非投資案の腹案を有し

つゝ、却て政治的裏面の事情に牽制せられて之を實行する能はず、特に又之を實行して、首相自ら自由黨の傳統的政策を紊るを欲せざるに於て、今や當局は英國産業の救済に就て如何とも爲し能はざるの感なくんばあらず。

## (五)

斯くて政府は、特に内閣部内に經濟委員會なるものを組織し、如何に其の經費を節約し得る乎、先づ之を調査するに決せり、從來の所謂委員會は、政府に向つて新計畫の憑憑を爲すを實例と爲せるに拘はらず、今次の委員會は却て如何に其經費を節して金不足を救ふべきかを究めんとす、英國政府の財政を以てして此に至れるもの、洵に其の國內經費事情、換言すれば産業上の不首尾に逢着せるかを知るに足れり、即ち消息通の談に依れば、管船大臣、食糧大臣の如き、何れも之を廢止せられんとする者の如く、果して然らば、アスクイス氏をして其の明を誇らしむる者と云ふも不可ならず而も嚴密に言へば、獨立自由黨側に在て克く經濟財政問題の喚起に與つて力ある者、

別に新進の自由黨員なりしと傳へらる。(一九二〇、一一、二五)

## 獨立自由黨の焦慮

## (上)

愛蘭問題に對するアスクイス氏の決議案は、下院に於て八十三票に對する三百三票の大多數を以て破られたり、決議案その者は、聯立自由黨の議員に依りて大修正を加へられたる上、下院を通過せるも、之をアスクイス氏及び其同志よりすれば、實に換骨脱體せるものと做さざるを得ず、即ちアスクイス一派の決議は愛蘭に於ける軍隊並に警官其他官吏の犠牲者に向つて、哀悼の意を致し、同時に之に對する政府の責任を問ふの意を示せる者なるに拘らず、修正案は却て愛蘭の一部——殊にシンフェン黨の暴狀を責むるに力を籠めたる者にして、要するにアスクイス一派は政府與黨の爲



めに、自ら投げたる擲彈を以て傷つけられたる者と解すべく、所謂返り討ちに遭へる觀なきにあらず、アスクイス氏は曩に一び議會に於て、勞働問題の提出に係る愛蘭に於ける所謂報復運動(實に殺傷)に對する裁判開始を求むるの決議案に同意し、而も當時自由黨員の此の案に賛成投票せるもの僅に八十一票にして、七十七人の同黨議員は實に反對投票を爲せりと言ひ、聊か自ら其の形勢不可なるを嘆じたる事實あり、今回更らに勞働黨及び獨立自由黨の聯合提出に係る前記決議案の説明に任じたるに拘らず却て返り討ちの憂目を見たるは、同氏の遺憾措く能はざる所なるべしと想はる。

(中)

蓋しアスクイス氏の地位挽回に努むるや久し、獨立自由黨員も亦ロイド・ジョージ氏を惡むこと蛇蝎の如しと雖も、議會の形勢は容易にアスクイス氏一派の復興に使せず、自由黨員中多少急進的なる者は此の際勞働黨との聯合に依りて、現状打破を試むべきを説き、乃ち急進的ならざる者に在ても、同じく其意見を有する者あるも、彼等

が勞働黨と較や其の態度を一致せしめ得べきものは、愛蘭問題並に勞働協同問題あるに過ぎず、而も愛蘭問題に就ても、彼等が幾何程度まで其の所見を同じうするかは、現にアスクイス氏の所見と、ヘンダーソン氏の所見と、未だ必ずしも一致せざる事實に見て、自ら明かなりとす、即ち若し兩派一致の點ありとせば、單だ政府の愛蘭に於ける方策、特に其の報復方策を不可とするに在りと言はざるべからず。

(下)

若し夫れ産業問題に就ては、兩派の一致は僅に之を其の表面に見るを得べきも、固より其の精神に於て相距る三千里のみならんや、ラムセイ・マクドナルド氏は嘗てアスクイス氏の勞働協同論を嘲つて曰く、勞働黨の社會觀は勞働者、管理者及び消費者の聯合より成る者として、之れを觀るに依り、即ち精神並に肉體勞働者の聯合として社會を觀るに在り、彼の現在政府者の計畫する種々の方策や、或はアスクイス氏の所見と之を比較するに、素より實行上の價值に於て少からぬ相違あるのみならず、抑も

又社會協同觀及び我が富源の適切なる利用、若しくは其開發に對する各種の利益觀に於て彼此少からの相違ありと、氏は特にアスキイス氏の所謂協同が其の「協同乃至共濟國家」を理想とするに拘らず、労働黨の協同が全然其の根本觀念を異にするを述べ、自由黨及アスキイス氏は結局時代錯誤に陥れる者にして、所謂自由主義は既に一世紀以前の者のみ、彼れはクキン・アン時代の古めかしき個人主義に逆戻りせる也」と罵倒して憚からず、乃ちマクドナルド氏ならずと雖も、自由黨の歴史を顧みる者は労働黨が今更ら保守黨に對する態度以上に、自由黨に深切を盡し能はざる理由を發見すべく、殊に況や獨立自由黨と労働黨と、其の地方選舉區の關係に於て、到底彼等の聯合を容す能はず、勢ひアスキイス氏一派の復興も亦前途尙は暗澹たるを免かれず。

(一九二〇、一一、二七)

## 英佛同盟の論議

(上)

英國と國際聯盟との觀察に就ては、曩に聊か記述する所ありたり、即ち英國の官民が國際聯盟に對して深切且つ確信的なるべきは今更予の説明を俟たざるも、一部評論家中には尙ほ冷評的態度を以て、國際聯盟を觀測しつゝある者あること、是れ亦固より到底否むべからず、而も此の種の評論家中には、同時に英國對佛國の關係を一層密接にし、兩國の同盟を以て、却て世界平和の保障たり得べしと做すものあり、予は最近巴里より歸英せる前駐佛英國大使ダービー卿が等しく亦國際聯盟以上に英佛國の同盟を頼みとする者なるや否やを知らざるも、卿が其歸朝歡迎會席上に於て、英國實業家に對し英佛同盟の議を高唱せる一事は、特に英國評論家中に、同一論議を爲す者あ

ると併せて、注目すべき事實と言はざるべからず、乃ち卿の英佛同盟論は、敢て之を國際聯盟と比較するが如き事なかりしも、兎も角も其の主旨(一)英佛同盟存在の効力及び(二)其の可能を力説するに於て、甚だ努めたるものと解すべき理由あり、氏の所見を以てすれば、若し英佛同盟曩に存立したらんには、或は大戦争を回避し得たるなるべく、少くも再び斯の如き慘禍を繰返せし事なかるべき事情あり、佛國は實に自ら軍國主義、侵略主義ならざるに於て、英國と何等の相違なく、乃ち兩國の同盟を以て平和を維持するの最も安全なるは、何人も之を疑ふ能はずと言へり。

(中)

而もダービト卿は、佛國の一部新聞記者がロイド・ジョージ氏の對獨逸態度を批難し時として英佛兩國の乖離を來さん惧れありし事實を忘るゝ能はず、唯だ卿は此の事實に向つても、之を僅に一小部分の評論に過ぎずと做し、佛國民の大多數が英國に對して好感を有すること、猶ほ英國の新聞紙中偶佛國を難するものあるに拘らず、其の

多數が同じく佛國に對して好感を有するが如しと言ひ、獨逸賠償問題、即ち英佛國所見の相違を豫期せられたる問題に就ては、ダービト卿は獨逸の賠償力が事實上恐らく英國の豫想以上に在るべきを説き、佛國は獨り講和條約を楯と爲すのみ、彼れは條約以上は何者をも求めず、而も同時に條約以下には一厘一毛をも假借する所なかるべしと言へり、予は卿の此の論議が幾何まで英國國民の注意を惹起し得るかを豫想する能はず然れどもダービト卿は多年巴里に在りて、最も克く佛國の事情に通じ、今や歸朝歓迎の席上に於て、國際聯盟會議を他所に、敢て英佛同盟を議するに至つて、相當に英國國民の注意を喚起する理由ありと想はる、殊に卿の論議は、佛國首相レギー氏が、現に倫敦に來りて英國首相並に伊國外相等と共に希臘問題を議し、結局英佛伊等三國協同の下に希臘前帝の復位を快しとせざる警告を發したる事實と照應して、最も英國の印象を深からしむべしと信せらる。

(下)

若し夫れ英國一部の評論家が、如何に英佛同盟を力説しつゝある乎を記述すること必ずしも必要ならずと雖も、假りに其の口吻を模すれば、要するに戦争の結了、即ち直に又英佛同盟の無用を立證する者にあらずと做し、米國既に英佛同盟に加入せず、而も土耳其問題尙ほ紛糾すべき事情あるに顧みて、英佛國の同盟益々緊要なるものあり、蓋し地中海は世界平和の鍵鑰にして、英佛國及び伊國は何れも地中海岸に於て、夫々其の重大なる利害を有する者也、若し英國にして一九一二年の海軍政策に基き、地中海に於ける其の海軍勢力を減退せしむる事なかりしならんには、一九一四年の獨土條約に對して或は土耳其側の調印を見ることなかりしなるべく、同條約は實に土國をして獨逸の爲めに戦争に参加せしめたる原因なりとす、夫れ英佛國首相の會議を要するもの現在及び將來に其の例少からず、而も兩國の同盟存在せば、此種の折衝も亦一層容易なるべきを否むべからず、正直に言へば、ロイド・ジョージ氏は最近まで英佛協約の信仰者にあらず、唯だ露國問題其他に關する氏の經驗は、漸く其の必要と効力

とを認めしめ得たる形跡あり、而も獨り協約を以て満足すべき乎、英國民は尙ほ此の際更に一步を進めて「結婚の馴染以上なるを」知らざるべからず、然り同盟は相互の利害の係る所に協同の政策を實行し、自然兩者の乖離を防止し得るの利益ありと、是れ英佛同盟論者の口吻也、乃ち予は此の論議の裡に、英國民が獨逸産業の復活と、其の英國及び佛國の産業に對する脅威たるべきを豫想せる事實を附加せざるべからず。(「九二〇、二二、四」)

## 財政問題の渦巻き

ロイド・ジョージ氏は英國一般社會の經濟財政論議、愈上盛す沸騰せるに對して、十一月三十日夜代表的實業家の集會席上、政府の所信並に其の方策なるものを述べたるも、内容極めて貧弱なるを免かれず、貧弱の語尙ほ當らず、流石に英國首相と雖も、

之を如何とも爲し能はざるの風なきを得ず、即ち氏の演説は例に依て滔々數千言、並居る實業家を煙に捲きたる形跡あるも、其の内容は要するに(一)不景氣は世界各國共通の事實なるを以て、獨り英國のみを以て考ふべからず、即ち世界平和は其の第一救済策也(二)若し平和復舊以外政府の爲し得る者ありとせば、獨逸の投資に對する方策及び爲替相場の調節のみと云ふに在り、首相は斯くて政府の經費節減論に向つて、是れ亦固より之を行はざるべからず。而も同時に各家庭に於ても亦、夫々節約の必要ありと做し、其他は多くを語らず。

××

××

××

一面實業家側に於ては、利得超過税及び法人團體税の廢止を迫り、英國の産業は現在最早や其の重税負擔に堪へず、政府にして今之を輕減するに努めずんば、各工場は漸次閉鎖の止むなきに至るべしと做す、乃ち議會に於ては來年度政府豫算を八十億八千萬圓に限定すべく、所謂天引論を唱道する者あり、此の種の論議に依れば、大藏大臣

チエンバーレン氏は來年度政府歳入が、八十億以上に出でざるべきを言明せる事實あり、勢ひ當局としても亦否應なく其の經費の節約を斷行せざるを得ざる理由ありと説く、然れども政府御用紙の記者は勿論此の議に服せず、苟くも實業家にして、利得超過税、法人團體税を廢止すべしとせば、彼等は此の廢止に伴ふ二十億四千五百萬圓の缺陷を補ふべき新方策を提示せざるべからずと言ひ、暗に其の無責任と自個中心的論議を排するの風あり。

××

××

××

然れども英國國民の課税負擔能力は一年九十億圓なりと稱せらるゝに對して、政府來年度の豫算は餘りに其の膨脹を示さん形勢あり、殊に海軍豫算の如き九億六千五百萬圓即ち戦前に比し二倍半の巨額を示さん情勢あるに於て、國民固より之を默認する能はず、政府の財政委員會が兎も角も來年度に於て二十億圓を減殺せん方針を決定せるが如くなるは、聊か同情に値するも、其果して英國國民の満足を得るやは、尙疑問た

るを免かれず、皮肉なる新聞記者が議會に於ける國務大臣の増俸に關する委員會に就き、逸早く總理大臣年俸五十萬圓、文部大臣五萬圓、其他各大臣、議員等の増俸案を傳ふるが如き、却て政黨節減論者を亢奮せしめずんばならず。

x x

x x

x x

海軍豫算の膨脹に對しては、自由黨機關紙早く其の無謀を責めて、狂氣の沙汰と爲し、今や世界に於て英國海軍の注目を惹くもの、米國と日本のみ、而も日本は英國の同盟國にして、米國の富強彼れが如く、若し英國にして彼れと相争はんとせば、自ら先づ財政窮迫に陥らざるを得ず、此の時に當つて英國が其の所謂二國海軍主義を固執せんとするは、愚の骨頂なりと説けり、尙此の自由黨新聞が日英同盟の更新に反對せんとする一部英國國民の杞憂として、同盟の更新を以て即ち却て英國に好意を有する第三國の同情を失ふ所以と做す者は、其の實餘りに卑怯に過ぐと爲せるは注目すべく、所謂第三國の同情を失ふとするもの、要するに米國及び支那を以つて、他の一同盟を

形成せしめんとするなきかを指せりと解せらる。

x x

x x

x x

所謂政費濫費の一材料として、愛蘭問題も亦アスクイス氏一派の爲めに算へらる、即ち愛蘭をして彼れが如き状態に置くに於て、政府の軍隊駐劄其他の經費少からずと云ふに在り、是れ亦恐らく眞理也、然れども現に愛蘭シンフェン黨が海を越えて英蘭に迫り、リヴァプール及びマンチェスターに於て、船渠破壊、發電所焼打等の陰謀を有し、倫敦に於てさへ、總理大臣官邸以下各官衙の防備を嚴にし、議會の傍聽を禁ずる等、一種の戒嚴的狀態の下に在る。當つて、克く愛蘭の平和を期待し、其の之に要する政府の經費を節減せんとするは到底不可能事たるを免かれず、抑も愛蘭自治案さへ、ロイド・ジョージ氏に確信ありと傳へられたるに拘らず、近く上院に於て殆んど原形を止めざる如き大修正を加へられ、當局また如何とも爲し能はざる事情あるに見るも、愛蘭の平和を見る尙近しとは言ふべからず。

x x

x x

x x

上院に於ける愛蘭自治案の修正は政府案に反対せる獨立自由黨の新聞に在てすら、尙且退歩とする所にして、南北愛蘭に各一個の議會を置かんとする者とす、特に南愛蘭の爲めには愛蘭大法官、ブダリン市長、コーク市長及實業家労働者有識階級の代表者十七名、其他四十四名の代表者を以て組織せらるゝ、議會(元老院)を設置せらるべく、乃ち原案に於て五十名の議院より成る南北愛蘭議會統一議會設置の條項は、全く削除せられたはれり、政府は固より此の修正に同せざるべく、曩に政府案の通過を見越して、南愛蘭民を納得せしめるエドワード・カーソン氏と雖も、固より亦然らざるを得ず、斯くて愛蘭問題の解決は更に前途暗澹たり。(一九二〇、二二、四)

## 英國豫算の論議

### (一)

英國議會に於ける財政經濟問題は予が先便に報道せる以來、一層の熱度を高め、例の豫算天引論を煽つて、政府の冗費を非難する者少からず、ノースタリツフ卿の各紙最も猛烈を極め、連日政府の財政を責めて、議會に於ける豫算關係の法案、殊に膨脹を來すべき豫算案に賛成を表する議員の姓名を發表して、一種の牽制を試みる等世間の視聽を惹くに努めつゝあるを見る、乃ちロイド・ジョージ氏は議會に於て政府が政費の節約に努めつゝあるを述べ、大藏大臣チェンバレン氏は同時に政府の豫算節減行政整理に關する計畫を説明せるも、其の主旨とする所は豫算の膨脹を以て要するに戰爭の結果に外ならずとし、政府は來年度に於て特に財政の緊縮を圖らんが爲めに、

船舶大臣、軍需大臣並に其他能ふ限り各省の局課を廢止或は整理すべく、食糧大臣の廢止に就ては、既に夫々整理進行中に在り、軍備に關しても之を英帝國の防備に必要なる程度に止むべく、乃ち近東若しくは中東諸方面に於ける軍隊に就ては、漸次其狀勢に應じて、之を引揚げ或は減員して、經費の節約に努めつゝありと云ふに在り、之をノースクリップ卿系の新聞が、單なる理論演述に過ぎずして、未だ政府に確定的の計畫あるを知るべからずと言へるは聊か酷評に失するも、尙同大藏大臣が海軍計畫に就て説明せる所に依れば、此の方面に於ける豫算の膨脹幾何なるか窺知し易からず。

## (二)

ロイド・ジョージ氏は海軍計畫に關して、至急帝國防備委員會を設置し、其の調査確定を見るまで、一切の海軍計畫提案を見合せん意向なるも、海軍當局は既に大戦艦、戦闘巡洋艦等、巨艦の建造計略を樹て、而も私かに之を所謂最小限度の者と做しつゝある事實あり、所謂防備委員會が如何の程度まで之を削除減縮し得るかは、寧ろ疑

問とすべく、況や其他の方面に於ける種々の新計畫を算へ到らば、政府の經濟委員會が當初の二十億圓減縮目論見以上、更に多少の加算を爲し得るか否か、是れ亦疑問たらざるを得ず、現に陸軍に於ける航空事業擴張計畫の如きも、少からず其經費を要すべく豫期せられつゝあるに於て、特に然らざるを得ず、予は政府反對論者が苛税誅求論を高唱しつゝ、政府の財政的手腕を非難せるを怪しまざるも、動もすれば政府黨の機關紙特に保守黨の新聞が同時に政府の一部に向つて、冗費の傾きあるを難するの風あるを見て、ロイド・ジョージ氏及び大藏大臣の苦痛を察知せざる能はず、是れ實に聯立内閣の一弱點たること明かなりと雖も、抑も亦大戦後に於る必然の結果と解すべき理由あり、特に英國の産業が獨逸の復活に對して動もすれば其の悲境に陥らんとする一事、益々政府及び國民の經濟に對する脅威たらざるを得ず、斯くて又此の問題は自由黨及び保守黨の乖離を來さん事情あるに於て、延て内閣の政治的弱點を暴露せん悞れなきにあらず。



近時最も聯立内閣の弱點を暴露せるもの、愛蘭妥協問題なること、何人も容易に之を看取する所なるも、更に産業問題、殊に染料問題は自由黨及び保守黨の傳統的政策の相違に鑑みて、甚だ露骨に聯立内閣の弱點を暴露せるものと做すべく、所謂染料問題は獨逸の染料に對して英國染料事業の保護を與へざる限り、到底彼れと競争する能はずと做すに在りて、保守黨は此の機に於て保護貿易の勝利を叫ばんと企て、自由黨また其自由貿易論との調和を試みん氣勢あり、自然政府黨内部の不調和を來すべき理由あること、猶は曩に予の通信せる非投資法案に於ける狀勢と異らず、唯だ自由黨中現内閣擁護派として保守黨と聯合せるもの、必ずしも未だアスキイス氏一派の獨立自由黨に比して、爾く自由貿易論に忠實ならざるが爲に、辛く政府與黨内部の壞亂を來さざるのみ、乃ちアスキイス氏は最近某處に於ける演說中、染料保護の問題は、自由貿易を超越せる國民自衛の問題なりと言へるも、保守黨は之を嘲笑して、自由黨の所謂國

家主要の産業とは、果して何を指せる乎、曰く染料事業、曰く玻璃製造事業、曰く某某化學工業是れ也、而も獨り是等の事業をのみ主要と爲す所以に至つては、甚だ曖昧且つ薄弱ならざるを得ずと言へり、彼等に取つては國家の繁榮は其の制度如何に在り英國産業の繁盛を企圖するもの、何人と雖も之が保護に努めざるを得ず、而して所謂保護の第一は保護貿易と做す也、議院の保守黨議員また此の機を利用して、切りに自由貿易論者を脅かしつゝあるを見る。

## (四)

夫れ獨逸玩具侵入以來、英國産業界の恐慌意外に甚だしく、獨逸品は殆んど潜航艇式の方略を以て無標識のまゝ盛んに倫敦市場に潜入しつゝあるのみならず、地方に向つても盛んに英國商品の市場を侵略しつゝ、獨逸の玩具は今や英國各市場の大恐慌を喚起しつゝありと傳へらる、斯くて新聞紙は獨逸側玩具輸出の實況を知るに努め、巨細の事實を通信すること猶軍事に對するが如きものあり、現に世界各國の市場を巡視

せる一英人が、切りに英國實業の萎微を嘆じ、南米各地、支那其他世界將來の大市場悉く米人乃至日本人等の爲めに獲得せられ、一英國青年の自ら奮つて新市場に活動せる者なしと説き、特に青年の發奮を力説せる事實と照應し到れば、英國識者の同國産業に對して、漸く警戒を嚴にせんとするを知るべく、此の際又支那學生の招致を切論しつゝある者また同一動機に出づべきのみ。(一九二〇、二、一一)

## 陸海軍費の膨脹

### (一)

英國來年度豫算に對する天引論は議會に於て三百廿一票に對する六十六票の少數を以て否決せられたるも、流石に陸軍費の膨脹に就ては、政府當局自ら多少の辯解なきを得ず、政府反對派の新聞が陸軍大臣チャーチル氏の豫算膨脹に關する説明を冷評し

て、彼れも亦私かに財政家たらん素振りを見せたりと言へるは、聊か冷酷の感あるも、兎にも角にも來年度陸軍豫算に於て更に四千萬磅即ち約四億圓の増加を來さんとする一事は、到底之を掩蔽すべからず、陸軍大臣は此の増額の内容に就て極めて詳細なる説明を試み、其の必ずしも悉く所謂中東、近東の問題に關する經費の増加を意味せず、別に大戦争當時の施設に原づく増費も亦少からざるを説けるも、同時にメソポタミヤ乃至波斯等中東方面に於ける軍隊駐割の爲めに要する總經費四億九千萬圓(即ち四千九百萬磅)にして、當初の豫算に比し約一億六千萬圓の超過を示し、愛蘭の動亂其他の爲に餘儀なくせらるゝ軍隊の兵員も亦、政府當局の豫定數に減員するを容さず、結局之に要する經費に於て約一千五百萬圓の豫算超過を見たる事實は、陸軍大臣自ら之を否認する能はず、斯くて埃及、パレスタイン若しくは印度國境の軍隊費用を加算し來れば、如何に「財政家たらん素振り」を見せたるチャーチル氏と雖も、殆んど削減の餘地なしとせざるべからず、況んや別に海軍新計畫費の大重荷を豫期せられつゝある

に於て、英國々民の多數が其の生活費の増加と併せ觀て、或は天引論に同ずるも亦、止むを得ざる事情ありとす。

## (一)

予は曩に海軍計畫、特に大膨脹を來さんとする海軍豫算に就て、英國内の論議に關する數言を記述せりと記憶す、即ちロイド・ジョージ氏は政府の財政策に關して議會に於ける説明中、海軍計畫に於ては特に國防委員を設けて、急速に吟味せしむる所あるべく、同委員會の決定を見るまで、一切海軍計畫を提案する事なかるべきを約し、其の後現に同委員會の設置を見たるも、批評家は早くも海軍に對する徹底的根本方針の決定せらるゝ事困難なるを報じて、所謂委員會に對する希望を大にせず、ノースクリップ卿の新聞の如きは、嘗て大戰開艦輕視の風を有したる論議が、今や復大艦主義に返へらんとするは、果して何の理由に基くやを責むるに急也、蓋し海軍大臣フィッツィンジャー氏は一九一九年九月、將來の戰爭は要するに飛行機の獨擅場にして、少くも海軍

に在て之を回避し得るもの、潜航艇の外あるべからずと言へるに拘はらず、超えて本年英國海軍當局の所見は、聊か之と異なるものあり、即ち大艦は依然として海軍の中心勢力にして、之に對する飛行機の利用及び効果は、今日に在て尙は確實なりと言ふべからず、勢ひ直ちに大艦を放棄するは、英國の爲めに危険なりとするもの、現在當局の意見にして、前に記述せるフィッツィンジャー氏の所見と相合致せず、ノースクリップ卿の新聞が、捉へて以て其の矛盾を非難する、流石に理由なきにあらず、而も海軍當局の私かに計畫せる豫算を以てすれば、陸軍經費の膨脹約四億圓に對して、海軍豫算の膨脹尙ほ更に驚くべきものあるに於て、英國政府の大財政も少からぬ困難を招致せざる能はず。

## (二)

然れども根本問題は、到底陸海軍費中の一磅乃至十磅を増減するが如き問題にあらず、即ち英國の新聞と雖も、此の點に關して固より盲目にあらず、彼等の或者は所謂

政府の經費節減に於て、獨り數字の加減に満足する能はずして、進んで根本的政策の吟味を試み、特に此の種の新聞は海軍を以て米國或は日本と競争し、陸軍を以て過激派と相争ふも、究極する所英國の疲弊に外ならずと做し、往時英國海軍の所謂二國主義に復歸するが如きは、時勢の變遷を無視し、國際聯盟を忘れ、若しくは日英同盟を妄れたる者なりと言ひ、中東方面に於て徒らに過激派の抑制に努むべく軍隊を用ふるは、却て彼等の爲めに翻弄せらるゝ所以にして、假りに此處に抑へ得るも彼處に顯はれ、彼處に制し得る時忽ち復た此處に現出するが如き狀勢に陥らんとすと做す、彼等は實に英國が少許の軍隊を以てして、埃及を治め、印度を治め、中東、近東を掌中に收めたる往時の外交振りを懷はざるを得ざる也、換言すれば武力以外の力を以て、克く武力の爲し能はざる所を全うせる歴史を追想して、今昔の感なきを得ざる也、時勢は世界平和を希ひ、國際の關係は協和と親密とを理想とすと云ふに拘らず、英國は愈々益々其の陸海軍の膨脹を餘儀なくせられ、世界到處の植民地、必ず軍隊の増員を要

するが如きは、英國國民の心外千萬とする所にして、彼等は現に膝下たる愛蘭に對してすら少からの軍隊を駐屯せしめざる能はず、倫敦の諸官衙さへ、木柵を以て其の守備を嚴にせざるを得ざるに至つては、獨り行政費の節減を論ずるも、恐らく如何ともする能はざるのみ。

## (四)

然も中東及び近東の狀勢は、十分米國政治家及び英國國民をして、今昔の感に堪へざらしむる理由あり、波斯の形勢は多少の改善を見たるも、パレスタインの近狀は未だ必ずしも樂觀を容さず、メソポタミヤに至つては、英國政府は専ら亞刺比亞人の政府樹立に努め、其軍隊に依つて自衛の途を講せしめん目論見を有し、休戦後二十二萬二千の兵員を減じて、七萬人に止めんとせるも忽ち形勢轉換して、更に再び増員の止むなきに至れる事實あり、而もアルメニヤの狀態は全然英國及び聯合國の爲めに善からず、ゼネヴァの國際聯盟會議は同國と最も密接なる關係を有する米國を誘うて、何等

かの救済を試みんとせるも、遂に其意を全うせず、土耳其の今日は、露國過激派の親善國にして、聯合國の牽制、到頭其の功を奏せず、以上の状態は延いて印度の將來を危ましむる事情あり、斯くの如きは戦争後に於ける世界の新状態にして、英國陸軍大臣乃至海軍の力を以てするも、固より如何とも爲すべからず、或は英國外交家の手腕を以てするも殆んど策の施すべき所を知らずと雖も、英國民に取つては益々其の負擔を増倍する所以たらざるを得ず、況や内には失業者續出し、産業不振の聲を聞き物價の騰貴を見つゝあるに於て、彼の平和策を思ふも亦宜なりと言はざるべからず、予は失業者問題に就て、別に報ずる所あるべし、而も最近失業總數約百萬人に對して、除隊兵其の大部分を占め居る事實に想到せば、英國政府當局と雖も容易に其の軍隊の減員を斷行する能はず、此の意味に於て彼等は正に一種のデレンマに陥れる者と解するも不可ならず。(一九二〇、十一月)

## 愛蘭問題一段落

(上)

予の愛蘭問題を叙する、幾回なるを知らず、而も英國民を以て觀れば、同問題は實に彼等の歴史の一部也、少くとも英國自由黨及び保守黨鬪争史の主なる一幕と謂ふを得べし、今や愛蘭の状態、宛がら内亂の如く、最近ヨーク市の大火のみを以てするも其の損害四百萬磅(約四千萬圓)に上るべしと傳へらるゝに當つて、英國貴族院が衆議院の再修正に對し、四十八票對九十一票の多數を以て之を可決し、政府の自治案斯くて將に法律と爲らんとするを見るは、兎も角も愛蘭問題の一區劃を爲すものと解すべき理由あり、依て以て英國歴史の暗黒時代を閉づるを得ば、愛蘭民に取つても亦、其の幸福と謂ふ妨げず、唯だ現在愛蘭の狀態は未だ此の法案の通過確定を以て、眞に其

平和來とは解すべからず、政府の反對新聞にしてアスクイス氏一派の機關たる某新聞が是れ寧ろ平和招致の一階梯と做すべく、而も之を以て必ずしも不滿とは爲すべからずと言へるは、却て穩健なる批評と爲すべし、事實を言へば上下兩院の修正を経たる愛蘭自治案は、政府の原案に對して、少からの斧正を加へられたるものにして、下院の多數が曩に政府案を可決せるに拘らず、上院は予が前に通信せる修正を加へ、更に之を下院の議に移す所あり、下院は乃ち上院の修正に向つて、重ねて其の修正を試みたるも、固より政府原案と相距る少からず、上院の修正中、南部愛蘭が自治案公布後二個年内に其の議會員を選擧せざる場合は、政府は豫め之れに對する新措置を取る前に、先づ兩院の議に附すべしとせるを、下院は改めて三個年半に延長して、上院の同意を求めたるもの、之を主なる變改と爲す。

(中)

ロイド・ジョージ氏は本問題に就ても亦、十二分に其の聯立内閣の弱所短所に處する

痛を経險したる者と做すべく、初め労働黨首領ヘンダーソン氏以下、同黨の選出委員が、愛蘭の實況を視察すべく、黨議に従つて、將に倫敦を出發せんとするに當り、ロイド・ジョージ氏は密かにヘンダーソン氏と會見し、愛蘭シンフェン黨との妥協を目標める形跡あり、而してヘンダーソン氏は固より愛蘭に對する政府の所謂報復手段を喜ばず、「名譽ある平和」を得るに熱心せる事情あるを以て、恐らくロイド・ジョージ氏の内意を諒とせる理由あり、斯くてヘンダーソン氏は愛蘭に至りて、直にシンフェン黨の領袖に會し、同黨の某領袖は其の結果、ロイド・ジョージ氏に向つて、平和の爲めに「如何に一步」をせんとするかを照會する所あり、此の一電報は愛蘭問題に對する英國政界の一驚異にして、彼等愕然としてシンフェン黨の態度を凝視せるの風あり、而も此の間保守黨の一部は、早くもヘンダーソン氏とロイド・ジョージ氏との間に於ける筋書を感じし、前者は要するに愛蘭に於ける投票を獲得せんとする人氣取の目的に出で、後者は自から暴徒に屈して、陛下の軍隊を傷け忠實の愛蘭人民を困惑せしめた

る賊徒と握手せんとする者なりと嘲り、聯立内閣内部の多数を制するの故を以て、切りにロイド・ジョージ氏を脅迫せる形跡あり、此の結果ロイド・ジョージ氏は當初ヘンダーソン氏と會見せる際に於ける自個の妥協氣勢を殺がれたること勿論にして、シンフェン黨領袖の打電に對する返電を遅延せしめたる事實に見るも、氏が保守黨の威嚇に怯えたる事實を推し難からず。

(下)

然れども機を見て、變通の自由なる、未だロイド・ジョージ氏の如き者は多からず、彼れはシンフェン黨に對する打電を猶豫しつゝある間に、早くも保守黨側の所見を察知し、愛蘭に對する二重政策を取るに決したる者と解せらる、即ち愛蘭中、殊に中正穩健なる團體(一部シンフェン黨其他)の所在地に向つては政府は飽くまで和平交渉を進むべく、唯だ從來の言動最も過激にして、法律上寛假し難き者は、之を看過せざるべきを言明し、同時に到底度すべからずとする地方に對しては、斷然軍政を施すに決

せり、而もシンフェン黨領袖の照會に對しては、現に同黨の内部複雑にして、所謂領袖と謂ふと雖も、必ずしも容易に全黨員を代表せるものと做すべからず、勢ひ直ちに平和の交渉を開き能はざるを遺憾とするも、右交渉の爲めに愛蘭議會員の言動を認むるに決し、苟くも愛蘭人民にして、和平を希望する者に向つては、今後と雖も政府また之を折衝するに吝ならずと言へり、即ちロイド・ジョージ氏は一面保守黨の機嫌を損せざるに努め、他國に於ては自家の初志を全うし、且つヘンダーソン氏と語れる所を反古にせざらん用意を爲せるものと見るべく、勢ひ保守黨、労働黨乃至自由黨とも悉く幾分の満足あるも、同時に幾分の不満あるを免がれず、而もカソリック教牧師の和平に對する同情と忠告ある等、愛蘭人民が漸次暗黒の裡に一道の光明を認め、折柄また自治案の議會を通過するありて、愛蘭問題の爲めに喜ばしき傾向を見つゝあるは疑ふべからず。(一九二〇、一二、三三)

## 英國失業者問題

一四四

失業問題は英國政府若しくは英國一般社會現在の最重要問題也、予は此の頃倫敦市上に於ける失業者の示威運動を見、殊に其の示威行軍中、婦人勞働者にして尙且つ男子勞働者と共に、市中を行軍する者あるを見て、少からの同情を禁する能はず、彼等失業者中には更に十字路上に喇叭を吹奏しつゝ、行人の同情に訴へて、一片乃至二片の喜捨を求むる者あり、勞働者大臣マクナマラ氏が議會に於て説明する所に依れば、現在失業者の數五十四萬人を算するも、事實上の數字は、予が先便に言へるが如く、將に百萬人に達せんとすること疑ふべからず、彼等は乃ち隊伍を組んで世間の同情に訴へ、毎日市中便宜の建物を占領して、此處に宿り、早朝より晩景まで各處を行軍する以外、其の職を求むるも與へらるゝ者なく、其の妻子を養はんとするも、其の所得な

きを如何ともする能はず。

××

××

××

倫敦市當局、宗教家は固より、其他の篤志家にして彼等の爲めに公共の建物、寺院又は比較的大規模の建物を貸して失業者の宿泊に當つる者あるも、飲食の資は勿論失業者自ら世人に訴へて、其の喜捨に俟たざるを得ず、折柄歳暮れんとしてクリスマス先づ到り、妻子の飢寒を訴ふるも、遂に救ふに遑なきを知らば、英國政府當局の之が爲めに各種の努力を試みるも亦當然事と言はざるべからず、即ち政府當局が最近議會に發表する所に依れば、彼等は建築勞働組合に向つて、更に五萬人の除隊兵を收容使に用せしむべく、(一) 素養ある者に對して一人に付五鎊を補助し(二) 雨天休業時に對しては一週間二十二時間に付五割、同以上に付七割五分を補給せん事を提議せるも、建築勞働組合は尙ほ一層有利の條件を求めて、容易に政府の提議を容れず。

××

××

××



政府は又建築労働組合に對する前記の交渉以外、地方當局に向つて、道路の改修若しくは開通等、大に土木を起さしめて、除隊其他の失業者を使用せんことを慫慂する所あり、地方當局は道路工事又は建築工事以外、他の有用なる事業を起して、失業者を收容すべく、三百萬磅（約三千萬圓）の補助を求め、政府の委員會は種々調査の結果、除隊兵に對して收容の優先權を與ふるを條件として、右補助を許可するに決したる模様あり、特に除隊兵に向つて優先權を與へんとするは、失業者總數五十四萬四千人に對し、除隊兵二十六萬五千人を占め居る事實と、彼等が國家に貢獻せる功勞とに酬ゆる以所なりと雖も、除隊兵以外、婦人労働者の失業また十三萬一千人に達し、此の方面の救済も亦急ならずとせず。

x x

x x

x x

乃ち政府は更に同時に失業保險法を改正して、拂戻し條件を緩和し、斯くて刻下の急に應せんと試み、ロイド・ジョージ氏は議會に於て、凡そ世界の何れの國と雖も、

我が英國の如く失業者の爲めに國庫の支出を大にせる者あるべからず、米國の富強を以てして、尙ほ英國に及ばすと言へるも、斯くて果して根本の救済を爲し得るか否かに就ては、各方面に少からぬ批評あり、労働黨議員クラインス氏は未だ政府の提案に満足し能はざるも、刻下の應急策たるを失はずと言へるに拘らず、同黨方面に在つては政府の建築労働組合に對する交渉を以て、寧ろ労働組合に對する一種の壓迫と做すの感あり、抑も労働組合が政府の條件に満足せざるに就ては、ロイド・ジョージ氏は多大なる不平を以て之を議會に報告し、例の雄辯を以て議員及び一般社會の同情を喚起せんとする形跡あり。

x x

x x

x x

ロイド・ジョージ氏は又甚だ恠怩たるが如き態度を以て、此の際失業者の海外移民を試みんことを勧誘し、政府側の新聞中之を高唱して、移民また大に可也、英帝國の領地にして尙ほ我が失業者の移住を容るべき空地少からずと言ひ、此の空地を度外視

して帝國將來の繁榮あるべからずと説けり、唯だ移住の事、必ずしも現在世界の狀勢を無視するを容さず、今や政府當局が移民即ち萬事の解決を意味するが如く説き爲さんとするに對して、政府反對の新聞中には、上陸の困難と上陸後の困難とを無視して徒らに英國國民の海外移住を説くは酷なりと言ふ者あり、要は海外旅行の手續其他の煩累を除去すべしと言ふに在るが如くなるも、此の際勞働交換局の活動と相俟ちて、海外移住に關する調査委員會の設定を必要とする者も亦是れなきにあらず。

××

××

××

ロイド・ジョージ氏は英國の現在は、猶ほ破産者に隣せる繁盛店舗を見るが如しと言ひ、英國獨り榮ゆるも、之が貨物を購ふべき顧客は、殆んど破産し去りて、一文錢を有せずと爲せるも、其の實英國多數の勞働者自ら日に日に其の業を失ひ、資本家は貨物の賣行き思はしからざるが爲めに、勢ひ事業を短縮して生産を制限し、或は價格の釣上げを試み、従つて物價騰貴すれば従つて顧客を減ずるが如き状態にあるを免か

れず、生産の制限を以て不景氣に處するの途と做すは、資本家の淺慮にして、物價の低下は賣行きの増大を誘致し、更に従て勞働者の需用を盛んにするを知らざるべからずと説く者あり、必ずしも未だ繁盛店舗の樂屋とのみは觀るべからざる也。(一九二〇、二二、二四)

### 突發せる海軍協定議

(一)

予は新年第一の通信として、英國評論界の軍備制限論に就て、多少の記述を試み得るを、興味ある役目と做す、而も予は特に先づ英國「評論界」と斷り置くの必要を認めざざる能はず、英國の政治家若しくは政治界が、此の問題に對して幾何の興味を唆られ、且つ幾何の努力を爲しつゝあるかは、尙ほ予の興り知らざる所なれば也、唯英國

の國際聯盟會議委員として、最近ゼネヴァ會議席上、大氣焔を揚げたるバーンス氏の一派が、豫て軍備制限の意見を持し、殊に其の實行の手段として、先づ世界各國を擧げて國際聯盟に加入せしめ、私設軍器製造所の開設を禁止するの必要を認め居る一事は、顯著なる事實にして、ロイド・ジョージ氏また近く英國議會に於て、世界一齊に平和の爲めに其の歩調を同うすべく、乃ち軍備問題の如きも、斯くて漸く其の實現を期待し得べく論述せる事實あるも、固より實際運動として特に英國政界の新現象を看取すべき者あるべからず、偶々英國の財政經濟問題は、延いて軍備費問題に對する世間の注目を惹起し、大艦建造計畫乃至近東、中東に於ける英國外交の批評と爲り、或は米國海軍の計畫に對する競争的態度の批難を誘發せること、予が曩に少しく記述する所ありたるが如し。

## (一)

若し嚴密に詮索せんには、英國の評論界は米國の一部に在つて所謂海軍休息の議即

ち向ふ五個年を期し、一切の海軍新規計畫を中止すべく英米國並に恐らく日本の間に一種の協定を試むべしとするものありたるに對してさへ、頭初甚だ冷淡なる批評又は態度を持したりと言ふを真相と爲す、即ち更に軍備制限論に火を付けたる者は、ノースクリップ卿の米國海軍卿ダニエルス氏に寄せたる論議若しくは英國海軍大臣ロング氏の米國新聞記者に語れる所を以て最も有力なる者と解すべく、ロング氏は要するに議會に於けるロイド・ジョージ氏の論述に向つて、軍事當局の敷衍的批評を加へたる者と做すべきも、ノースクリップ卿の論議は、卿がダニエルス氏と友人關係を有する事情に見て、少からず米國海軍卿の興味をも誘致し得たりと推せらる、是れより先きダニエルス氏の米國海軍新計畫に關する氣焔當るべからざる者あり、下院に於ける海軍委員會の席上、米國海軍は當さに世界第一たらざるべからずと言ひ、彼の海軍休息協定の議を笑ひ、武力に依る事なくして、列國の關係を設定し得べき日は是れ有らんも、少くも其の實現を見るまでは、米國は米國としての海軍計畫を實行せざるべから

すと爲し、流石に米國自ら國際聯盟に加入し居らざるが爲めに、同聯盟に向つても、殆ど不關焉の風を示せり。

## (三)

ノースクリップ卿は之に對して、英米海軍の新規計畫に關する無意味を説き、更に米國の政治家又は評論家中、日英同盟に對する誤解と懸念とあるを説く所あり、此の機に於て米國に於ても英海軍の無謀なる膨脹を咎めて、英米國並に日本の協定を宜しとする者少からず、一部偏見を有する米國新聞が此の議を冷笑しつゝある事實なきにあらざるも、英國側に在つては各新聞何れも熱心に海軍協定の議に賛し、米國が動もすれば日本の海軍を恐れて却て日英同盟の内容を忘るゝは、寧ろ杞憂に過ぎすと做し、同盟あるが爲めに日英米三國の協定は容易にして、且つ有力なるべき理由あるを説けり即ち英國新聞の所見を以てすれば、英國自ら巨大なる海軍建設の爲めに、破産に陥るべき事情あるのみならず、國際的海軍の競争は、結局相互の破産を餘儀なくすべく、

而も各國其の欲する所の大海軍を建設するも、克く何れの日にも満足の程度に到るを得る乎、殆んど保證すべからざる理由あるに於て、凡そ海軍の競争ほど無意味にして、危険なるものはあるべからず、況んや獨逸の狀態現に彼れが如き今日、世界の所謂海軍國は、要するに日英米三國のみにして、英米の人種關係彼れが如く、日英の關係彼れが如く、三國の協定必すしも困難ならざるに於てをや。

## (四)

英國新聞紙中國國際聯盟を冷眼視して、却て佛英協約の有力にして有意義なるを説く者あるは、予既に之を説述せり、而も海軍制限問題に就ては、此の種の新聞と雖も尙且之を高唱して憚らず、聯盟の役目は例へば交通、貿易、來往等現に國際的協約の下に在る種々の國際事務に關する協定を完全にして、相互の平和關係を高むるに在り、海軍協定のこと亦固より國際聯盟の主要なる目的に合致するも、此の提唱は更に各國各自の畫策に根據する者と解すべく、各國の國策は各國民の理想に根據する者なるを

以て、自ら時々彼我の衝突を免れず、而も今試に日英米三國の事情に見るに、英國に於ては何れの政府と雖も、英帝國海上の交通を保障するを以て海軍の目的とし、即ち英國海軍の標準を自衛程度に置くに於て、何れも根本の一致あり、究極の所謂『自衛程度』は、之を海軍當局の裁決に依るの外なく、米國新大統領たるべきハーディング氏の所見また米國の商品及び海岸を防禦するを以て、米國海軍の標準と爲すにあるを知らば、英米兩國の海軍に對する國策既に齟齬を見ずと言ふべき理由あり、更に日本の海軍方策また其の自衛程度に在ること明かなるに於て、三國の海軍當局自から宜しとする協約を結ぶに就き、何等の異存も危険もあるべからずと、是れ國際聯盟を冷眼視せる英國新聞の所論なりとす。

## (五)

即ち英國の新聞は、其の保守的たり、進歩的たるを問はず、一齊に海軍協約の議を歓迎せる者と見做し得べく、彼等が英國財政の實情に顧みて盛んに此の議に賛成せ

るは勿論にして、ノースクリップ卿の各新聞が、特に財政計畫の杜撰を責めつゝある間に、卿自ら挺身、海軍協約の議に油を注げるに於て、或は其の樂屋を嘲笑する者なきを保せざるも、米國海軍卿がノースクリップ卿の言に對して、改めて賛同の意を表し、卿に向つて予が愛慕の情を傳へよ、而して彼れに告げよ、予が世界各國民の協和を欲求し、且つ海軍建設競争の中止を欲しつゝある事を——と述べ、更に唯一平和の基礎は埃太利、獨逸の如き、適當なる時期に於て夫々國際聯盟に加入する事を許容し罪惡に對して世界各國相共に之に當るに在りと言へるは、曩日の大氣焔に比し、多少の緩和を加へたるものと解し難からず、唯だ米國に在つては前に記述せるが如く、必ずしも英國の評論家の如く、爾かく一齊に海軍協定の議に向つて深切ならず、ダニエルス氏の所謂世界第一の海軍を建設するに熱心にして、却てノースクリップ卿の日英同盟辯を冷笑せる者なきにあらず。

## (六)

予は此の文の最後に、日本軍備費豫算が、少からず英米國を刺戟せる一事を附加せざるべからず、即ち我が大正十年度豫算概算に於ける陸軍軍費の數字が、英米國に傳へらるゝや、彼等は其の炬の如き——或は神經亢奮の爲めに充血せる眼を見張つて、一齊に之が詮索を試みたる事實を掩ふべからず、英國社會主義の新聞が特に原首相の演說中「民力を強うせん爲めに」此の豫算を計畫せりと言へるを咎めて、一種の軍國主義豫算と解するの風ありたるは、假りに之を例外とするも、其他の各紙亦日本帝國の收入と軍備費の比率に就て注意せるは疑ふべからず、蓋し此の事實は特に英國に在つては、彼等自身の財政難と照合して、他人事ならず感受せられたるものと想はる、唯英國民の多くは固より原首相の所謂民力を強うせんとする政策を猜疑せず、駐英日本大使の新聞記者に對する談話も亦、多くの新聞に依て深切に批評せられたるは、甚だ喜ぶべしとするも、所謂海軍協定中「自衛程度」「防禦程度」の如何を決定すべく有効なる措置を見ざる限り、海軍制限論も亦到頭一場の夢物語たるを免かれず、各國何れ

も軍備費の膨脹に對して、漸く窮せんとし、而も米國獨り其豊富なる資力を誇る者の如く、國際聯盟を餘所に、或は國民聯合乃至主要國民組合を論じて「世界第一」の海軍國たるに是れ汲々たらば、世界平和策は勿論、海軍協定の實現また固より成るべからず。(一九二一、一、四)

## 英國政府の二三難案

(上)

失業者救濟問題は、其の後彌英國政府の難問題と爲り、今や失業者の數七十四萬八千人に上り、最近一週間に十萬餘人の激増を見たりと報せらる、乃ち政府は更に之に對する應急方策として勞働分配案なるものを立案し、現在勞働者の勞働時間を短縮して、失業者を之が補充に利用せん意見を有する者の如く、商務大臣は勞働組合、勞

働黨に向つて之に關する協議を勧誘し、ロイド・ジョージ氏も亦之等各團隊の代表者を集めて、失業問題委員會を設置せん計畫を進めつゝあるも、労働黨は時間短縮を以て徒らに労働賃銀の低落を來し、労働者一般の生活標準を低下する者と做し、少くも現在の勞銀及び労働者の生活状態維持に就て、何等かの保障なき限り、政府の立案を歓迎せざるのみならず、同時に政府の協議勧誘を拒絶するに決し、殊に政府の所謂失業問題委員會は要するに現在失業の善後のみを考慮せんとするに止まりて、如何の事情の下に失業者を生し來れるかの根本問題を度外視せん氣勢あり、而も斯くの如きは失業問題に對して、寧ろ労働黨の責任分擔を強ひんとする者とするの風あり、政府の機關紙が此の際舉國一致の失業救済を必要とし、苟くも労働黨にして實際政策に就て考慮する所あらば、彼等また政府の計畫に參して、其の所思を開陳するを妥當と做しつゝあるに拘らず、労働黨は全然現政府に右解決の力なしとして相助けんとはせず、失業者の續出に關しては、労働黨夙に之を警告せるも、當局之を聽かず、今其の豫言の

實現するに至つて、愕然として急を救はんとするも容易に其の目的を達すべからずと言へり。

(中)

失業問題と關連して、始終英國政界乃至評論界の議題と爲れる者は英露貿易復舊問題也、予は之に關する英露兩國當局の條件折衝に就て更に少しく記述する所ありたり而も同問題、殊に英國側の條件に就ては、英國政府部内に強固論者あるが如く、保守黨首領ボナー、ロー氏の所見は勿論、外務大臣カーゾン卿また容易に露國側の要請を容れず、此の間保守黨の新聞は英露貿易問題が獨り商務大臣の措置を以て決定すべからざるは固より、須からく英國々是若しくは外交上の大方針に基かざるべからざるを説く等、旁保守黨の意見甚だ頑強なりと信すべき理由あり、社會黨の新聞カーゾン卿の英露折衝は、氏自ら中東に於て英國の勢力下に立つべき一個の國家を守り立てん野心を包藏せるが爲に、勢ひ又露國の勢力を制抑するに峻酷なりと言へるは、果して眞

相を語れる者なりや否やを知らざるも、兎も角英國現在政府部内に強固なる分子ありて、嚴密に露國過激派に對する貿易條件を強行せん所見を持し居れるは、疑ふべからず、更に獨立自由黨即ちアスクイス氏一派の所見如何を見るに、特に急進論者として有名なるマスターマン氏の意見を別とするも、大體に於て英露貿易復舊の急を信ずる形跡あり、少くも英國産業振興上の一策として、貿易の復舊を有力なる者と做しつゝ、あるは掩ふべからず、保守黨新聞が、假りに露國との貿易を再開するも、多數英人の豫期するが如き原料の輸入を實現すること難く、乃ち過激派の眞意は此に在らずして、寧ろ英國との關係を復舊し、依て以て各國との交通を再開し、其の間自家の宣傳に使せんとするのみと言へる一事は、必ずしも彼等の推猜とはせざるも、多少の偏見に因れる者と解せらる。

## (下)

英露貿易問題が動もすれば、ロイド・ジョージ内閣の不統一を暴露せん惧れあると共

に、愛蘭問題も亦屢々氏を困惑せしめつゝありと推せらる、愛蘭問題が同自治案の議會通過を以て一段落と見るべき事情あるは予之れを記述せり、而もロイド・ジョージ氏は尙ほ全く鎮靜せざる愛蘭の一部を、軍政治下に置くに就て、流石に不愉快ならざる能はず、殊に曩に一たびシンフエン黨との妥協を試みんとせる事實に見るも、ロイド・ジョージ氏が何等かの方法を回らして、平和を獲ん希望を有するは、到底之を否むべからず、現に最近の新聞に見るも、英國政府が所謂愛蘭共和國大統領として、既に一旦死刑の宣告を受け、其の後米國に遁逃せる某シンフエン黨領袖の密かに愛蘭に歸還せる事實あるに拘らず、強ひて之を捕へんとせざるのみならず、或は之を倫敦に誘うて、講和の議を開かん企望ありと傳へらるゝに見るも、ロイド・ジョージ氏の眞意を推し難からず、且つ氏がカンソツク教の大僧正と會見し、シンフエン黨の他の一領袖と會見せる事實も亦之を否むべからず、然れども保守黨を以てすれば、少くも愛蘭共和國大統領なる者は、英帝國の謀反人にして、斷じて英政府との對等談判を容さず、



乃ち政府當局にして斯種の人物と折衝を試みるが如きは、以ての外の量見と解すべき理由あり、少くも愛蘭問題の解決は、現在の状態に於て、抑制鎮壓以外に何等の方途なしとする者の如く、ロイド・ジョージ氏と會見せる大僧正の語れる所に依るも、氏自らは平和折衝の意あるに拘らず、ボナー・ロー氏並に軍事當局者中、シンフエン黨にして、先づ其の軍隊を解散し、武装を解除せざる限り、一切の折衝を容さずとする者あり、ロイド・ジョージ氏も到頭此の意見を枉げ能はざるべしと観測せらる。(一九二〇、一、二二)

## 印度總督の任命

印度總督チエルクスフォード卿は四月を以て辭任すべく、其の後任に就ては、ロイド・ジョージ氏少からの苦心を爲せりと解すべき事情あり、現在大藏大臣チエンバーレ

ン氏先づ其の後任に擬せられ、ロイド・ジョージ氏は再三同氏に向つて、其の就任を勧めたる形跡あるも、遂にチエンバーレン氏の承諾を得るに至らず、勢ひ總督後任問題は行惱みの儘、殆んど進行の風なく、次で又政界の一部にロイド・ジョージ氏のチエンバーレン氏に對する再勧誘を傳ふる者あり、我れ他共に適任者の甚だ多からざるを認めて、或はチエンバーレン氏の承諾を避け難しと倣せるに拘らず、氏は尙ほ之を辭して受けず、到頭リーデング卿の任命に決したる者と想はる。

x x

x x

x x

予は此の機に於て、印度の現状を詳述するの餘裕を有せず、然れども同地の現状が最も不安固の裡に在るは、少しく印度の近狀に着眼する者の等しく看取し得る所にして、假りに最近の情報に見るも、ガンダーの運動なるもの、愈出で、矯激なる形跡を掩ふべからず、苟くも其の運動を成功せんとならば、血の海を超えて行くの覺悟なかるべからずと言ひ、一念印度自治政府の獨立に努めつゝある事情あり、到處の集會、

演説は悉く此の精神に則り、鐵石の決心と、凡そ如何なる生活と雖も、印度現政府の下に在るよりも、幸福なりとする信念とを以て事に當る者に取つては、現在唯一の通路は、實に唯だ武装の革命に在りと做す、即ち一印度王(印度人)の如きは、偶々倫敦に於て英國の對印度政策を批評し、印度事務大臣モンタギュー氏に向つては、印度の諸王之を助くるに吝かならざるべき旨を公言せるが爲めに、忽ち印度に於ける物議を醸し、遂に印度人の警告を受けたる事例あり、其の果して如何の結末を以て平靜に歸するかは、固より予の斷言し得る所にあらず。

蓋し印度をして現在の状態に立至らしめたる遠因近因に關しては、英國人中種々の批評を加ふる者あり、予また其の二三を知るも、此の際多く語らざるを以て、自他の便宜と做すべき理由あり、唯此の機に於て一言するを得べしとせば、英國政府に取つて最も警戒すべき一問題として、印度の將來を擧ぐるの、決して不當にあらざること

是れ也、夫れ或は我が日本帝國に於ける朝鮮に比する者あるべく、又或は愛蘭問題の如く爾く難解にあらずとする者あらん、而も予を以て見れば、勿論朝鮮の我が日本帝國に於けると、大に其の趣を異にし、愛蘭問題以上更に困難を感すべき事情あるを信ぜざる能はず、印度總督の任命容易ならざる理由また此に在つて存す。

況んや英國政府は露國過激派の印度、波斯方面に對する宣傳に對して、豫て甚大の警戒を怠らず、對露貿易復舊の條件として、其の宣傳中止の約束を擧げ居れる事實に徴するも、如何に彼等が其の將來を恐れつゝあるかを察知し得べく、是れより先き印度駐劄英國軍隊の司令は、印度防備の爲め、特に獨立せる軍隊の組織を必要とせる事實あり、兎にも角にも印度の將來が獨り安靜を期し難き事情あるは、何人も之を豫想し得る所なりとす、乃ちリーデング卿の任命に就ても英國の新聞中、種々の批評を下す者あり、保守黨の一新聞が卿の猶太種なるの故を以て、大に之に反對せる一事を最

も興味ある議論と爲す。

××

××

××

リーディング卿は其の官途に於ける進路甚だ坦々として、又急速なりと稱せらる、即ち卿は一九〇四年より一九一三年まで英國下院に於ける自由黨議員にして、其の始めて内閣員と爲れるは、大狀師の資格を具するに至れるが爲めのみ、爾來累進して一九一八年より翌年まで英米兩國特使と爲り、又現に大審院長たり、今次の任命に就て卿はまづ健康に關して醫師の保證を得たるもの、如く、保守黨の新聞はアスキイス内閣當時議會の問題と爲れるゴッドフレー・アイザック會社問題を引用して、リーディング卿の經歷に關する詮索を試みる所あり、所謂アイザック會社は卿と兄弟の間柄にあるアイザック氏の經營する所にして、同會社がアスキイス内閣當時、政府に向つて或種の利益契約を結ばんと試みたる一事、端なく議會の問題と爲れるも、リーディング卿は絶對に其の事實を否認し、而も後日に至つて卿自から亦多少の利害關係を有したる事實

を明かにせる者とす。

××

××

××

即ち保守黨の機關紙を以てすれば、其の最高法官の地位に在る、既に香しとすべからず、況や其の清白ならざる手を以て印度の統治に任じ、猶太種を以て現に印度に於ける回々教徒對佛教徒の關係彼れが如く危険なるに當つて、其の統治に蒞むが如きは最も面白からずと做す、現任印度事務大臣モンタギュー氏また猶太種と特別關係を有す、斯くて氏が更にリーディング卿と相圖るに至らば、猶太種の勢力勃然として起り到るべく、是れ將來を不安ならしむる者とするもの保守黨紙の意見にして、要するに猶太種の勢力、近時大に伸び至れるを惧る、結果に外ならざるも、予が曩に報じたる非猶太論の一例として之を觀れば、亦興味ある讀みものたるを失はず。

××

××

××

今朝倫敦の新聞は、印度に於ける暴動の擴大と、恐慌區域の増大しつゝあるを傳へ

警察力を以てして之を抑え難きに至れるを傳ふ、リीडング卿の赴任後、未だ安靜を期し難き所以を想はざる能はざる也。(一九二二、一、二三)

## 失業問題と労働黨

(甲)

失業問題善後に關して、労働黨が政府の協議勸誘を拒絶せるは、先便に其の大略を記述せり、彼等の所見を以てすれば、英國政府の計畫しつゝある失業問題委員會なるものは、要するに當面の現象に向つて應急臨機の糊塗策を講せんとする者にして、未だ根本問題即ち何の爲めに爾く多數の失業者を生じ、或は生じつゝあるかの問題に觸れんとせず、斯くの如きは寧ろ一時労働黨を利用して、所謂應急方策の決定に對する責任分擔を強ひんとする者に過ぎずと做す、蓋し労働黨を以てすれば、現在の失業問

題は少しく志ある者の豫測せる所にして、労働黨夙く之れを警告せるのみならず、政府の私かに目論見つゝある労働分配案の如きは、假りに之を英國の各工業、産業に適用せんとするも、多く其の餘地を發見すべからず、乃ち政府にして根本問題に溯らざる限り、應急糊塗の方策を試みるも、何等の結果あるべからずと云へり、而も政府側の新聞は、之を以て労働黨の非常なる誤解と爲し、彼等が目前多數の失業者を控へつゝ、尙且つ所謂根本問題を語り、或は更に所謂資本主義の弊害を論究せんとするは、餘りに事象を辨せざる者と言ひ、労働黨が豫て労働者庇護の一手販賣を誇れるに拘らず、實際政策の決定を要するに當つて、却て其の協同會議を拒むが如きは、平生の宣言に似ず、寧ろ無責任を極むる者と做す、殊に所謂根本問題に就ては政府は別に又一般産業の振興を講ずべく一種の委員會を組織せん計畫を有し、應急策と併せて國家永遠の方策を研究せん腹案を有するに於て、労働黨の協議拒絶は愈々以て其の理由を有せずと云へり。